

平成29年度

長崎大学病院  
メディカル・ワーカーライフバランスセンター

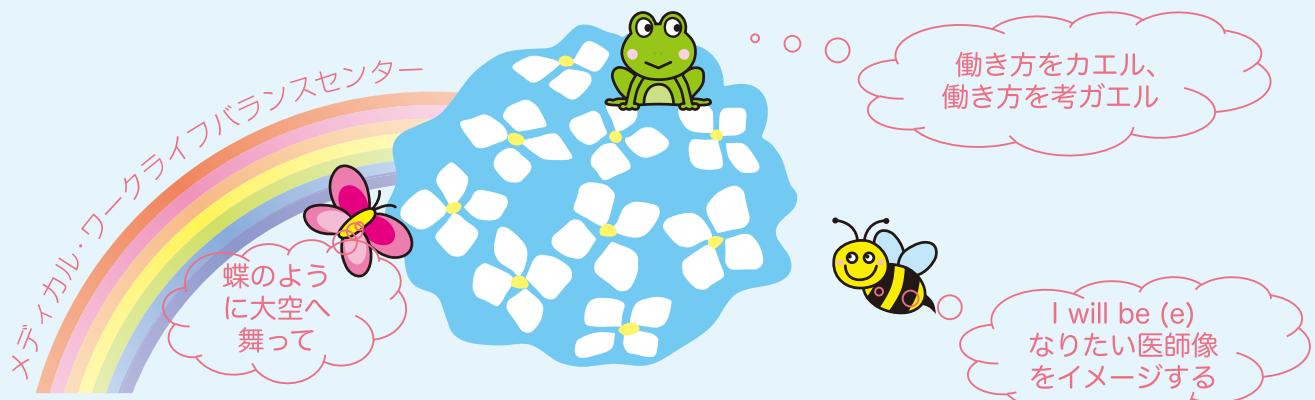
あじさいプロジェクト  
活動報告書



# 目 次

はじめに	1
------	---

<b>1.プロジェクトの概要と目的</b>	
①あじさいプロジェクトとは	2
②メディカル・ワークライフバランスセンターについて	2
③あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関	3
④あじさいプロジェクト ホームページからの発信	4
⑤Facebookからの発信	5
⑥病院イントラネットからの発信	5
⑦あじさいプロジェクト通信(メールマガジン)からの発信	6
<b>2.両立支援活動</b>	
<b>①キャリアサポート</b> 	
1)キャリアコンサルティング	7
2)復職&リフレッシュトレーニング(全3回)	8~11
3)学生キャリア講習会(3年生)	12~15
4)キャリアアップセミナー(全2回)	16~17
5)医学生、研修医等をサポートするための会 ～医師のワークとライフをきいてみよう! ロールモデル探し～(全2回)	18~21
6)女性医師ネットワークづくり	22
7)輝く卒業生インタビュー	23~25
<b>②両立サポート</b> 	
1)日帰り診療応援システム	26
2)保育サポートシステム	26~29
3)イブニングシッターサービス	30
4)シッター手配サービス	31
5)両立ハンドブック(3種類)	32
6)マタニティ白衣・パンツ貸し出し	33
<b>③長崎県内病院の取り組み</b> 	
<b>【長崎大学病院の取り組み】</b>	
1)医局長訪問	34~35
2)ワークライフバランス推進員	36~38
3)長崎大学病院あじさい保育園	39
<b>【長崎大学の取り組み】</b>	
4)文教おもやい保育園	39
<b>【地域病院の取り組み】</b>	
5)病院インタビュー 佐世保共済病院	40~41
6)地域就労支援病院	42~43
7)私たちのワークライフバランス実践術	44~45
<b>3.調査・研究</b>	
①平成29年度 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート	46~47
②平成29年度 医師の両立支援状況調査	48~52
③平成29年度 医師の両立支援状況調査 二次調査	53
<b>4.広報活動</b>	
①講演	54
②メディア掲載・出演	55
<b>5.委員会活動</b>	
①センター運営委員会	56
②企画会議	56
<b>6.その他</b>	
①参加・受講	57
②施設見学	57
③関連機関所属一覧	57



## あじさいプロジェクト

NAGASAKI AJISAI PROJECT

仕事と生活の両立を図りながら活躍するドクターを応援します！

### キャリアサポート

自分らしく、キャリアを継続するために



- ・コンサルティング
- ・復職＆リフレッシュトレーニング
- ・講演会やセミナーなどの開催報告
- ・女性医師ネットワークづくり
- ・輝く卒業生インタビュー

### 両立サポート

育児、介護…ライフイベントを迎えて、  
安心して働くために



- ・長崎県医師会保育サポートシステム
- ・イブニングシッターサービス
- ・マタニティ白衣・パンツ貸出
- ・両立ガイドブック
- ・子育て家庭に役立つ情報 / 国の支援制度
- ・長崎県の病児保育・病後児保育施設

### 長崎県内病院の取り組み

ワークライフバランス実現を目指しています！



- ・ワークライフバランス推進員
- ・県内病院ワークライフバランス推進員メッセージ
- ・長崎大学病院の取り組み
- ・病院インタビュー
- ・地域就労支援病院
- ・私たちのワークライフバランス実践術

長崎大学病院は長崎県の委託をうけて、メディカル・ワークライフバランスセンターを設置し、長崎県内の医師が「働きやすさ」と「働きがい」を感じて医療に取り組める環境設備を常に考えています。センターが推進するのがあじさいプロジェクトです。

あじさいプロジェクトの活動は、ワークライフバランスの理念に基づいています。ワークライフバランスとは、充実したライフを得るために、ほどほどに働くという考えではなく、ワークとライフの相乗効果を狙ったものです。つまり、ライフで得られたスキル（例えば患者さんやメディカル・スタッフとの意思疎通を良くするコミュニケーションスキル）をワークに生かし、仕事の効率を上げて長時間労働を改善します。医師の「仕事と育児の両立」を図り、多様な就労形態で、子どもの成長に応じて徐々にステップアップできる仕組みづくりと、育児や介護等で時間制約のある女性および男性医師が、気兼ねすることなく働ける「お互いさま」の風土づくりで、キャリア継続できることを目指しています。

## はじめに



国立長崎大学法人 長崎大学 副学長  
長崎大学ダイバーシティ推進センター センター長・教授  
長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター センター長

### 伊東 昌子

平素より「あじさいプロジェクト」を応援していただき、ありがとうございます。今年度は、来年度スタートする新たな事業の準備を行いながら、これまで実施していた事業を継続してきました。

一般的の企業においても、長時間労働をやめて生産性の高い働き方が求められています。生産年齢人口が減り、子育てや介護、ご自身の疾病などの理由で時間制約を抱えた労働者にも働きやすい職場環境の整備が必要です。加えて、高度な専門職である医師は、質の高い医療を確保するために自己研鑽や研究活動、学会活動が重要であり、さらに大学病院に勤務する医師は研究や教育という診療以外の義務も請け負わなければなりません。男性医師も含めた両立支援・柔軟な働き方という選択肢、それぞれの人の能力を適正に評価する仕組み、そして誰もが能力を発揮できるための固定観念や無意識の偏見の解消、、私たちのやるべきことは、今まで以上に増加し複雑化しているように思います。

この1年間も、みなさまの応援をいただきながら、メディカル・ワークライフバランスセンターは活動を行って参りました。これからもみなさまのお役に立てるよう努めて参りますので、ご意見やご要望など、いつでもお気軽にお寄せくださいますよう、お願ひいたします。



長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター 副センター長  
南 貴子

「あじさいプロジェクト」by メディカル・ワークライフバランスセンターの活動を県内全域の医師・医療人のみなさんに知っていたい、活動の範囲を広げる目的で、今年度は県内の10病院にセンターと連携してくださるワークライフバランス推進員の先生が誕生いたしました。さらに、対馬でのセミナーでは、離島で頑張っている共働き子育て中の医師ともお会いできて、今後さらに県内どこでも働きやすい環境を整備していく決意いたしました。

子育てをしている時期にも、専門分野の臨床経験をしっかりと積みあげたり、興味のある分野の勉強や研究を行ったり、医師としてキャリアアップするための時間が持てるように、目に見えない足かせや肩の荷が少しでも軽くなるように、サポートしていきたいと思っております。

また、共働き世帯が増えて、パートナーと共に家事・育児を担うという考え方若くして定着して、働き方が変わり、だれにでも働きやすい環境が生まれることを推進していきたいと思います。

今年度の事業報告をご覧いただき、まだまだやるべきことがある、やってほしいことがあると思われましたら、いつでもご連絡ください。これからも、どうぞよろしくご指導・ご協力のほど、お願い申し上げます。

## 1. プロジェクトの概要と目的

### 1 あじさいプロジェクトとは

あじさいプロジェクトは、長崎県全域を対象に医師が仕事と生活の両立を実現するための支援とその環境整備を推進するプロジェクトです。 メディカル・ワークライフバランスセンターが中心となり、関係機関と連携してプロジェクトを進めています。主な取り組みであるキャリアサポートでは、医師としてのキャリアの継続・復帰支援のためのコンサルティング、復職トレーニングのほか、キャリアアップを目指した企画を行っています。

また、ホームページでさまざまな支援情報、イベント情報、ロールモデルの紹介記事などを発信。そのほか、県内のより多くの医療機関で仕事と生活の両立が可能な就労環境を整備していただくように働きかけています。

### 2 メディカル・ワークライフバランスセンターについて

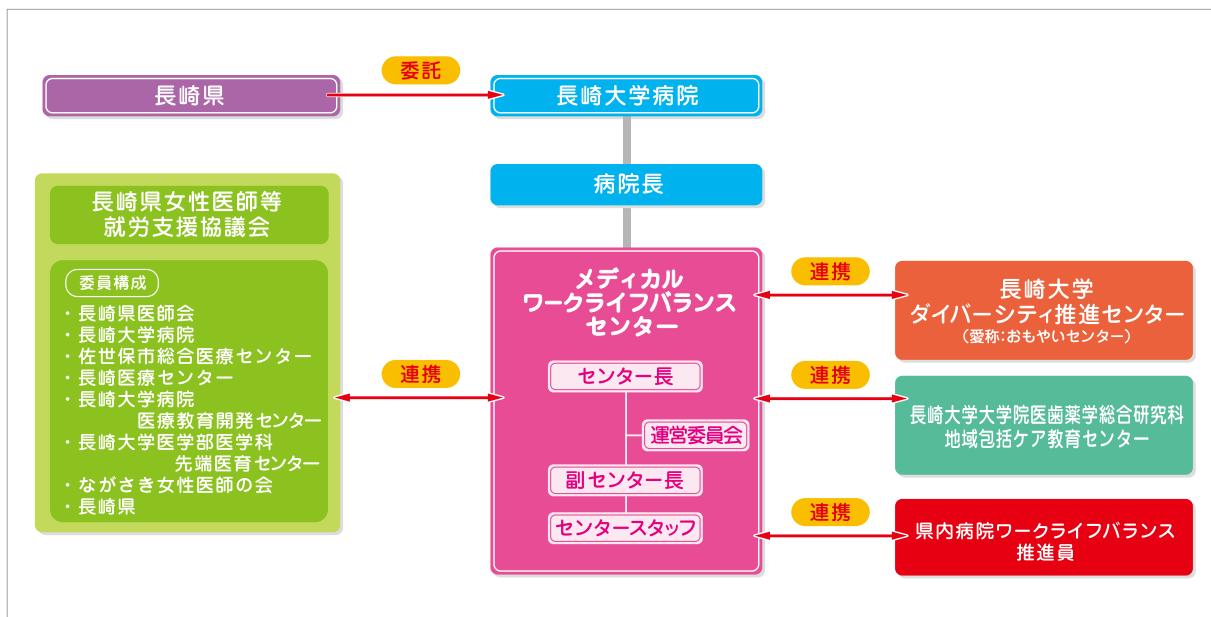
平成24年4月に長崎大学病院内にメディカル・ワークライフバランスセンターが開設されました。

ワークライフバランスが注目される背景には、少子化への危機感と人材確保への対策がありますが、最近はこれに重なって大介護社会の訪れがあります。育児と異なり、介護はいつまで継続するのか先が見えず、働き盛りの男性も含んだあらゆる医療人にとって離職を余儀なくされる状況発生の可能性を認識し、自分のライフサイクルに合わせて家庭生活と仕事の両立を維持できることが必要な時代となっています。

このメディカル・ワークライフバランスセンターは、長崎大学病院の「医療人」を対象に、職場復帰・就労維持支援、仕事と生活の両立の可能な環境整備、および次世代の医療を担う医療人の育成支援に努めています。その実現には、組織としての取り組みと同時に、各医療人の意識変革も重要です。また、あじさいプロジェクトの遂行には、長崎県・長崎大学ダイバーシティ推進センター・長崎県医師会・ながさき女性医師の会と連携しながら、長崎県内医療機関で勤務する医師を対象に働きやすい職場、やりがいを持ってイキイキと活躍できる医療現場を目指し活動しています。



### 3 あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関



#### ◆メディカル・ワークライフバランスセンター

#### ◆長崎県女性医師等就労支援協議会

長崎県の女性医師等就労支援事業について、関係機関の代表の委員から構成される協議会で、行政(長崎県)が開催。関係機関がどうやって協力して課題を解決していくかを審議する。

#### ◆長崎県医師会 <http://www.nagasaki.med.or.jp>

#### ◆長崎大学ダイバーシティ推進センター(おもやいセンター)

広報・啓発推進部門、ワークライフバランス推進部門および女性研究者支援部門の3部門と介護支援専門委員会、働き方見直し推進委員会を柱にして、長崎大学のダイバーシティ・マネジメントを進めている。

<http://www.cdi.nagasaki-u.ac.jp>

#### ◆長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター

地域包括ケアシステムを理解し、今後実践できる医師の人材育成と、超高齢化社会に伴う諸問題を研究する医師を継続的に輩出する仕組みの構築を目指している。<http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu>

#### ◆ながさき女性医師の会

女性医師にとっての現状や将来を見据えて、長崎県在住の女性医師を対象に"女性医師の集まり"を結成。さまざまな情報を交換し、お互いを支援している。 <http://nagasaki-joji.net>

#### ◆長崎大学病院医療教育開発センター

長崎大学病院の医師・歯科医師・看護師・薬剤師・他のメディカル・スタッフ等の教育部門が集結し、全職員の生涯教育に責任を持つ部署として機能。 <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/kaihatu>

#### ◆長崎大学医学部医学科先端医育センター

医学教育を支援する目的で設立され、医学教育の情報を発信している。

<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/medu>

<長崎県内の拠点病院>

長崎大学病院 <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp>

長崎医療センター <http://www.nagasaki-mc.jp>

佐世保市総合医療センター <http://www.hospital.sasebo.nagasaki.jp>

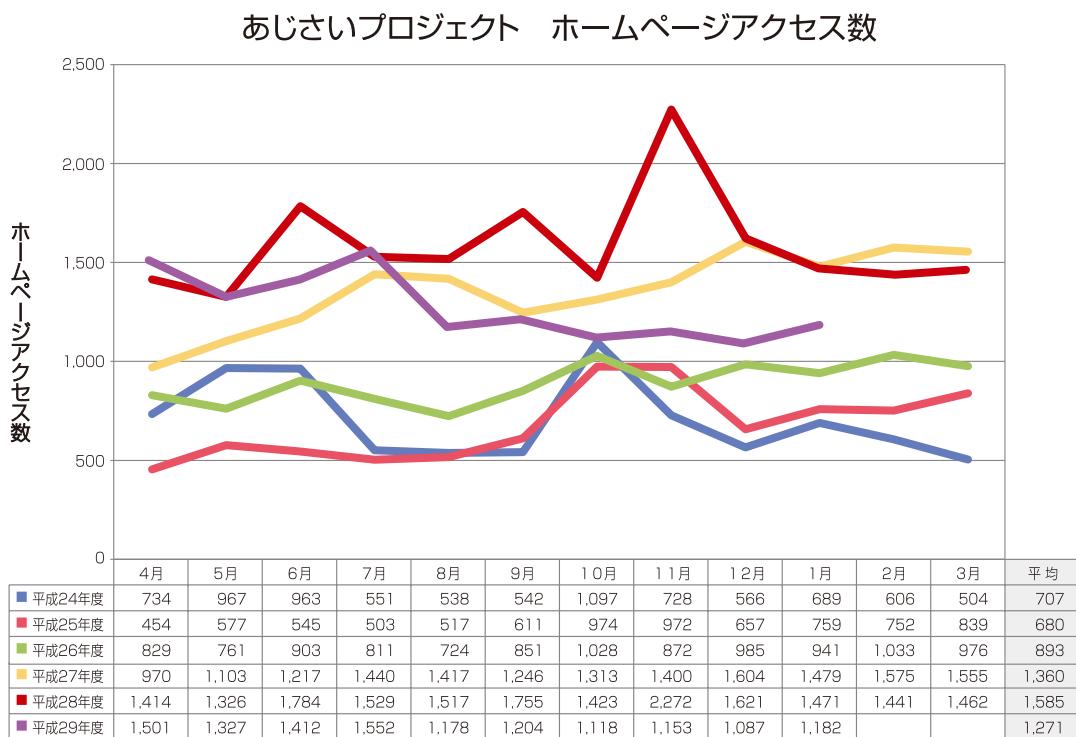
## 4 あじさいプロジェクト ホームページからの発信



長崎県内で働く医師・長崎大学病院に勤務する医療人にとって、働きやすい環境整備を推進するため、ワークライフバランス施策に基づいた職場づくりを目指すための情報を発信しています。

情報発信の3つの柱は、「キャリアサポート」「両立サポート」「長崎県内病院の取り組み」のテーマ別にアクセスすることができます。今年度は、長崎県内病院の取り組みの中で、「ワークライフバランス推進員」のコンテンツを追加しました。隨時内容の充実に努めてまいりますので、ぜひ、ご覧ください。

(<http://nagasaki-ajisai.jp>)



平成30年2月1日時点

## 5 Facebookからの発信

ホームページとSNSを連携することで、より多くの方へ情報発信が可能になりました。218名(平成30年2月1日時点)の方が「いいね!」ファンであり、記事拡散のご協力をいただきました。これからも、みなさまから賛同の反響を得られる活動を目指していきます。

Facebook QRコード



今年度 人気記事ベスト3

〈1位〉 私たちのワークライフバランス実践術 男性の育児休業取得編 No.2  
長崎大学病院 薬剤部 城 正士さん

私たちのワークライフバランス実践術  
男性の育児休業取得編 N o.2

長崎大学病院 薬剤部 城 正士さん (30代)  
《同業のパートナーと11か月のお子さん》

『生後9週のときに1か月取得』

〈2位〉 私たちのワークライフバランス実践術 男性の育児休業取得編 No.1  
長崎大学病院 薬剤部 伊東 潤一さん

私たちのワークライフバランス実践術  
男性の育児休業取得編 N o.1

長崎大学病院 薬剤部 (30代) 伊東 潤一さん (30代)  
《大学病院の病棟看護師のパートナー（復職済み）と1歳のお子さん》

『生後5か月のときに2か月取得』

〈3位〉 キャリアアップセミナー 第1回

テーマ「学会での英語プレゼン基礎編」  
講 師  
長崎大学病院 第二内科 山本 和子先生

## 6 病院インターネットからの発信

長崎大学病院のインターネットに、メディカル・ワークライフバランスセンターのホームページを公開しています。あじさいプロジェクトホームページへリンクしています。

## 7

## あじさいプロジェクト通信(メールマガジン)からの発信

読者1,022名(平成30年2月1日時点)へ、約月1回のペースでメールマガジンを発信しています。イベント開催のお知らせや活動報告、ワークライフバランス実現への施策などを紹介しています。

<発行メルマガの一例>

■ あじさいプロジェクト選定  
2017年8月 VOL.46  
届中 小百合様

こんにちは。長崎県立病院メディカル・ワークライフバランスセンターです。私どもの活動を応援してくださっているみなさまへ、最新イベント情報やお役立ち情報をお届けいたします。

興味のある記事をクリックしていただけますと、私どもの読みになります！よろしくお付き合いくださいませ。

◆ ◆ ◆ 法人登記 ◆ ◆ ◆

① 長崎県内病院のワークライフバランス推進員をご紹介します

② キャリアアップセミナー「学会での英語プレゼン基礎編」開催しました。8月4日(金)18時30分～「統計入門」開催します

③ 復職＆リフレッシュトレーニング「心臓蘇生の基本」8月4日(金)14時～開催します

④ 民営の両立支援状況調査結果報告 101病院・743診療所のご協力ありがとうございました

⑤ 長崎大学医学部3年生「医と社会」授業で、キャリア講習会を行いました

⑥ 保育サポートシステム 第1回サポート研修会を開催しました第2回8月3日(木)14時30分～長崎県医師会館、第3回8月10日(木)14時30分～大村市医師会を開催します

⑦ 長崎県内病院のワークライフバランス推進員をご紹介します

長崎みなとメディカルセンター、長崎県腫瘍病院、済生会長崎病院、長崎医療センター、佐賀大村市民病院、該早聯合病院、佐世保市聯合医療センター、長崎労災病院、長崎保健医療の内閣内閣、ワークライフバランス推進員を認定していただきました。推進員メッセージをぜひご覧ください。

http://nagasaki-ajisai.jp/hospital-support/11684

⑧ キャリアアップセミナー「学会での英語プレゼン基礎編」開催しました。8月4日(金)18時30分～「統計入門」開催します 協力受付中

今年度は全2回で、第1回は「学会での英語プレゼン基礎編」を第二内科 助教 山本和子先生にお話しいただきました。

次回は「統計入門」で、長崎医療研究財團 病床研究部門 痘瘍癌症医学 実践 鈴木 基先生におわかりやすく解説していただく必修内容が満足です。基礎から学びたい方は、ぜひこの機会にご参加ください。

http://nagasaki-ajisai.jp/career-supports/11859

⑨ 9月4日(月)14時～復職＆リフレッシュトレーニング「心臓蘇生の基本」「ママドクターの情報交換会」同時開催します 協力受付中

対象は、長崎県在住の医師・看護師および看護師内病院で働く医師で、テーマに関する知識をリフレッシュしたい方です。既往医療のエキスパートである教諭医療センター・看護センター・長崎県復職・出産後・離乳食のトレーニングです。登録名になり次第承認となります。登録料金です。

トレーニング後は「ママドクターの情報交換会」を行い、健常に向けて不安な点や、子育てに関するなど、ママドクター同士で安心ができます。

また、過去の講義を動画としてDVDもレンタルしています。ご希望の方はご連絡ください。  
<http://nagasaki-ajisai.jp/career-supports/11672>

⑩ 医師の両立支援状況調査結果報告

両親育児・育養者の方へ、ワークライフバランス施策に対する回答をお尋ねし、長崎県内病院の対応、介護休業制度等の両立支援の取り組み状況や施設間連携体制等の実態調査を行いました。また、長崎県内病院と診療所で働く女性医師の勤務状況を把握し、希望者はキャリアコンサルティングやメールマガジンを通して情報交換を行います。担当医師のサポートやキャリアアップの後押しもつける活動を展開していきます。  
<http://nagasaki-ajisai.jp/career-supports/11701>

⑪ 長崎大学医学部3年生「医と社会」授業で、学生キャリア講習会を行いました

「医師としてのキャリア鍛錬のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方を学ぶ」ことを目的として取り組みました。学生の感想では、「医師になったときの生活がより就職率をもって悩むため、自分で働き出したときの子どもの方に不安を持っていましたが、今回の講義での手元が少し解消された」とありました。  
<http://nagasaki-ajisai.jp/career-supports/11709>

⑫ 保育サポートシステム 第1回サポート研修会を開催しました。第2回8月3日(木)14時30分～長崎県医師会館、第3回8月10日(木)14時30分～大村市医師会を開催します 協力受付中

ご自分の子育て経験や保育士などの経験を活かしたい！両立に苦労する医師をサポートすることで社会に還元したい！というお考えの方を募集し、保育サポートになるための研修会を開催しました。

サポート・研修は個別受け付けでいますので、子育て支援の活動に力を貸してくださいようお願い合意。ご医療の方に、お知らせください♪  
<http://nagasaki-ajisai.jp/category/compatibility/support/holesupport>

よろしくまでお読みいただき、ありがとうございました♪

<配信グループ名>

1. メルマガ配信メーリングリスト(約1,000名) ..... 月1回ペースでイベント告知や活動報告を配信
2. 女性医師メーリングリスト(約600名) ..... 女性医師へイベント告知やWebアンケートが可能
3. 地域病院メーリングリスト(約100病院) ..... 県内病院へイベント告知や調査協力依頼が可能
4. 復職＆リフレッシュトレーニング ..... イベント告知が可能

### メルマガ登録方法

あじさいプロジェクトホームページトップ画面のメルマガ登録バナーや右記QRコードからご登録ください。メールが届かない場合は、メール設定画面で迷惑メールになっていないかご確認ください。「[nagasaki-ajisai.jp](http://nagasaki-ajisai.jp)」を指定ドメインとして受信登録をお願いします。



メルマガ QRコード

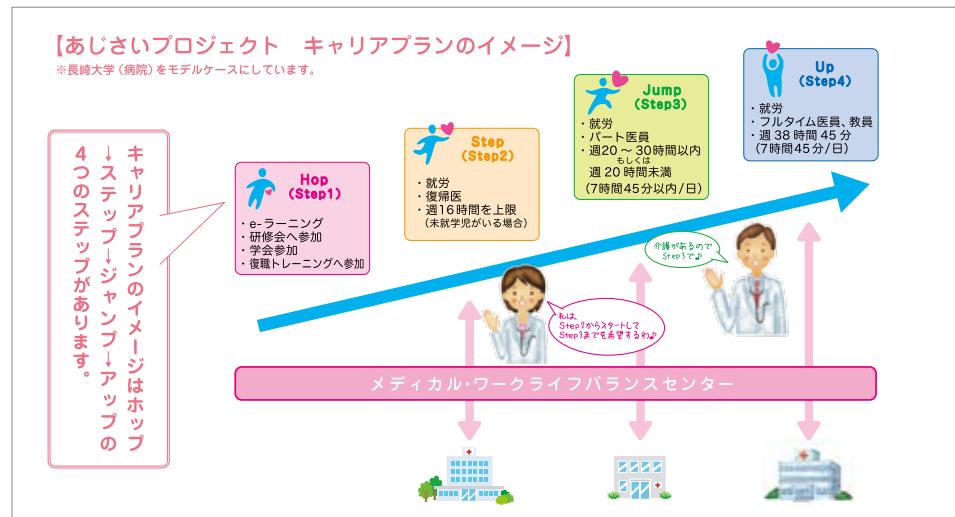
## 2. 両立支援活動

## 1 キャリアサポート

自分らしくキャリアを継続するために、ライフステージに応じた働き方を一緒に考えていきます。

## 1) キャリアコンサルティング

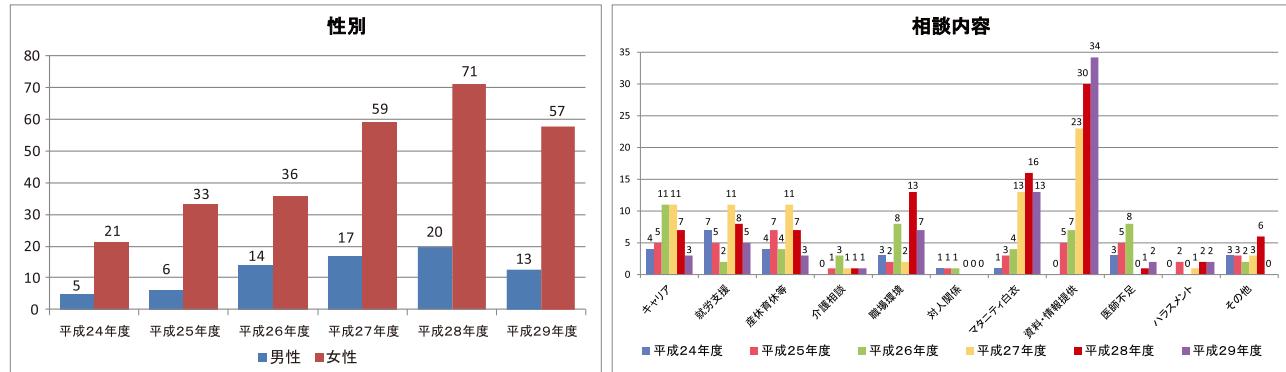
メディカル・ワークライフバランスセンターでは、出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ、キャリア支援のためのコンサルティングを行っています。



【相談業務】

平成29年度相談数 70件 (内訳) 長大病院 45件  
県内病院 15件  
その他 10件(離職者・行政・他大学・各県医師会・県外病院・報道)

### 【年度別相談者の性別、相談内容】 平成30年2月1日時点



## 【申し込み方法】

あじさいプロジェクトホームページのお問い合わせ・お申し込みフォームをご利用いただくか、センターへ直接お電話ください。

後日、窓口担当からご連絡し、担当コーディネーターと面談の日程調整を行います。

面談後、ご自身に合ったキャリアプランの作成をお手伝いします。

※お子さんの同伴可能です。



## 2) 復職&リフレッシュトレーニング(全3回)

復職&リフレッシュトレーニングは、育児・介護等で休職・離職中の医師に医療現場との気持ちの距離を縮めてスムーズな復職を促すプログラムです。就労中の方も、知識をリフレッシュしたい方はご参加いただけます。トレーニングの後は、「ママドクターの意見交換会」で、子育て環境や復職時のサポート体制などを情報共有しており、託児室のお子さんと離れ、ひとときの気分転換にもなると好評です。

当センターから休職中の先生へ、メルマガ配信やお電話でお声かけしながら地道に誘致活動をしています。休職期間のスキルアップや子育ての先輩・新米ママドクターの交流の場としてお気軽にご連絡ください。

これまでのトレーニングを録画したDVDを無料でレンタルしています。ご希望の方は、センターまでご連絡ください。

**【メディカル・ワークライフバランスセンター 復職&リフレッシュトレーニング DVDレンタル一覧表】**  
**※貸し出しを希望される【NO】をセンターまでお知らせください。**

タイトル	講 師	レンタルNO
急変時対応 (2013年度)	山下 和範 先生	4  レンタル可
急変対応の基礎-BLSと初期評価- (2014年度)	山下 和範 先生	13  レンタル可
急変時の対応～BLSと基本的な考え方～ (2015年度)	山下 和範 先生	17  レンタル可
心肺蘇生の基本 (2017年度)	山下 和範 先生	23  レンタル可
急性腹症	井上 悠介 先生	5  レンタル可
腹痛の画像診断～CT画像を中心に～	林 秀行 先生	18  レンタル可
頭部単純CTとMRIの読み方	森川 実 先生	6  レンタル可
胸部単純エックス線写真	林 秀行 先生	1  レンタル可
胸部単純X線写真読影の基本～まずは異常に気づきましょう～	島本 綾 先生	24  レンタル可
消化器内視鏡診療の最前線	中鋪 卓 先生	20  レンタル可
心電図の知識	土居 寿志 先生	7  レンタル可
だれでも遭遇する心房細動治療のこれだけは ～残念な経過にならないために最小限気をつけること～	荒川 修司 先生	15  レンタル可
降圧薬の使い分け	恒任 章 先生	19  レンタル可
「コメディカル以上、専門医以下」で見逃さない、脳卒中	立石 洋平 先生	14  DVD無 配布資料のみ可
咳の鑑別・アスピリン喘息	福島 千鶴 先生	2  レンタル可
食物依存性運動誘発アナフィラキシー	河野 哲也 先生	8  レンタル可
古くて新しい感染症～デング・NTM・結核・SFTS etc.～	神白 麻衣子 先生	16  レンタル可
熱と咳のプライマリケア	中道 聖子 先生	21  レンタル可
抗菌薬・抗ウイルス薬の使い方	森永 芳智 先生	12  レンタル可
CKD(慢性腎臓病)って何?	浦松 正 先生	9  レンタル可
最近の糖尿病薬、どう使う?	阿比留 教生 先生	11  レンタル可
栄養管理のABC	花田 浩和 先生	3  レンタル可
これは湿疹?尋麻疹?それとも蕁瘍?～重症蕁瘍を見逃さないために～	富村 沙織 先生	22  レンタル可
認知症は薬で治るか?	黒滝 直弘 先生	10  レンタル可

## 第1回「これは湿疹?尋麻疹?それとも薬疹?~重症薬疹を見逃さないために~」

日 時：平成29年6月1日(木)14:00～15:15  
 講 師：長崎大学病院 皮膚科・アレルギー科 富村 沙織 先生  
 場 所：長崎大学病院 多目的研修室  
 参加9名：院内4名、院外3名、育休中2名(初参加4名)



重症度による薬疹の分類		
軽症・併発	重症に準じる、入院が必要	重症：生命を脅かす、療養床を埋むる
尋麻疹型	多形紅斑型 (EM major)	アナフィラキシー型
湿疹型	多発性固定薬疹	TEN
紫斑型	水疱型	ステーブンスジョンソン症候群(SJS)
多形紅斑型	紅斑丘疹型	DHS
重症型	蕁瘍型	AGEP重症
色素沈着型	急性汎発性多形性癡癩症 (AGEP軽症)	間接型
固定薬疹		
扁平苔癬		
光線過敏型		

薬疹治療のプロトコール(中山書店)より



講義時のスライド(一部)

講義風景

皮疹の種類、分類、診断など、専門的なことを理解するのは難しいですが、そう感じたら専門医へ紹介すること、特に重症・重篤になることもある薬疹は遅れることなく専門医へ紹介することをおすすめされました。また、アトピー性皮膚炎の最新の治療法のことや、参加者からの事前質問に挙がっていた疥癬についても、追加して丁寧にお話しいただきました。



「ママドクター意見交換会」は5名の参加で、専門資格受験や、子どもの保育園・幼稚園のこと、お弁当づくりが必要な中学校のことなど、先輩から後輩へたくさんの情報提供があり、にぎやかな時間となりました。



ママドクター意見交換会



託児室の様子



### 参加者の声

・もうすぐ復職予定で、基本的な事も不安を感じているので、講義がありがたかったです。薬疹は大変勉強になりました。また都合がつけば、参加したいです。託児が利用できるのもよかったです。

・これまで子どもを預けたことがなく、試しに預けられて良かった。私も良い気分転換になった。



## 第2回「心肺蘇生の基本」

日 時：平成29年9月4日(月) 14:00～15:30

講 師：長崎大学病院 救命救急センター 山下 和範 先生

場 所：長崎大学病院 シミュレーション室

参加定員6名：院内3名、院外1名、育休中1名、離職中1名(初参加4名)



山下 和範 先生



講義時のスライド(一部)



講義風景

「救命の連鎖」についてお話をあり、命をつなぎとめるために行われるべきこととして、《心停止の予防》→《早期認識と通報》→《一次救命処置》→《二次救命処置と心拍再開後の集中治療》が、シームレスに連続していくことが重要だということです。

AEDが普及していますが、自分の身の回りのどこに設置されているか、探して確認すると良いと話されました。



「ママドクター意見交換会」は4名の参加で、保育サポートシステムのこと、お掃除(外注業者やロボット掃除機の利用)、食事づくり(宅配・外食の利用)、子どもの入浴のことなど、生活の時間短縮に関わる情報交換をたくさん行いました。



ママドクター意見交換会



託児室の様子



### 参加者の声

・わかりやすい説明でした。久しぶりの胸骨圧迫は結構大変でした。体験することができて良かったと思います。

・久しぶりのBLS実習でためになりました。大切な手技なので、考えなくても体が反応することが重要だと思いました。

## 第3回「胸部単純X線写真読影の基本～まずは異常に気づきましょう～」

日 時：平成29年11月13日(月)14:30～15:15

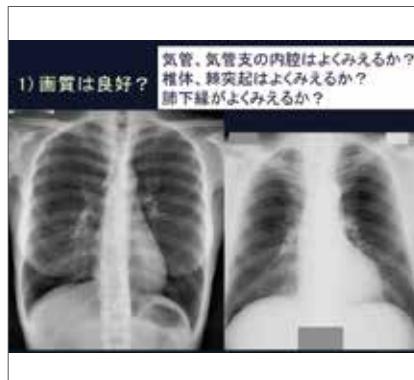
講 師：長崎大学病院 放射線科 島本 紗先生

場 所：長崎大学病院 多目的研修室

参加13名：院内3名、院外3名、育休中6名、離職中1名(初参加5名)



島本 紗先生



講義時のスライド(一部)



講義風景

胸部単純X線写真の読影を始める前の注意点、読影の順番を決めること、鑑別診断のためのチェックポイントなど、読影の手法を教えていただきました。たくさんのスライドを供覧いただき、すぐには異常に気付かないスライドもあり不安になりましたが、「なんらかの異常を発見したら、CTを施行して放射線医に読影してもらって、確認する流れをつくることができれば大丈夫。」とアドバイスがあり、安心しました。



「ママドクター意見交換会」は5名の参加で、保育園に預けると、冬季の感染症疾患は避けられないため、その覚悟と病児保育施設のことを、これから復職する先生へお伝えしました。また、お互いのパートナーのイクメンぶりを発表したり、小学生の放課後の時間の使い方(学童保育や習い事など)についての情報交換を行いました。



ママドクター意見交換会



託児室の様子



### 参加者の声

・胸部単純X線写真は、ずっと不安な内容だったので、とても勉強になりました。

・基本的なことからわかりやすく説明していただき勉強になりました。見落としやすい部分を注意していくたいです。

### 3) 学生キャリア講習会（3年生）

「ワークライフバランス」について、学生講義を担当しました。1時限から4時限までの丸一日をかけて、“医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方を学ぶ”ことを目的として取り組みました。

日 時：平成29年7月3日(月)8:50～16:10

長崎大学医学部3年生(男性78名、女性34名 合計112名)の「医と社会」教育の一環で実施。



伊東 昌子 センター長

「医師にとってのワークライフバランスと  
キャリア形成を考える」



講義風景

#### ロールモデル医師の講演①

長谷川寛雄先生からは、「すべて計画通りに行くわけではないが、柔軟に対応していくべきなんとかなる」というメッセージをいただきました。

長谷川麻衣子先生は、お子さん3人の子育ての苦労を感じさせないパワーで、行政の公衆衛生医師として様々なプロジェクトを遂行されています（講演後は防災訓練に参加）。仕事のために就労場所にはこだわらず、外部サポート（夕食づくり等）を頼みながら、パートナーの寛雄先生と一緒に家族5人で充実した生活を送られて素晴らしいと感じました。



検査部 准教授  
長谷川 寛雄 先生



長崎県福祉保健部  
医療政策課 医療監 兼  
長崎県五島保健所所長  
長谷川 麻衣子 先生



長崎県医師会 常任理事 濱戸 牧子 先生

日本医師会の「ドクターラーゼ別冊～医師会のことをもっとよく知つてもらうために～」の配布と医師会活動の紹介がありました。

#### グループ討論

仕事と育児の両立を目指す共働き夫婦が、問題に直面した時にどのように解決していくかを、グループに分かれて討論。事例ごとに、1グループがロールプレイングで発表し、他のグループは相違点を発表。ロールプレイングは、夫婦や上司など役のシチュエーション・セリフを考えて楽しく演出していました。印象に残ったのは、保育を外部サポートに頼む場合に、「お金に物を言わせて…」と表現する学生さんが複数いました。「日本では、ベビーシッター文化がなかなか根付かない」と言われてきましたが、いまだ容認されていない社会的一面をみたような気がしました。



## ロールプレイングで発表

### <事例1>

子どもが熱を出した時の設定ですが、「再発防止策」として、①日本独特の悪しき伝統の固定観念を持つ上司(社会環境)の意識改革 ②同僚の仲間意識の向上(信頼関係の構築)→仲間のことに関して無関心にならない、を提案し、深く理解できていると感心しました。



### <事例2>

夫婦共に緊急呼び出しの多い診療科での後期研修を希望している設定です。いろいろなケースを想定していく、うまくいった場合とうまくいかなかった場合を演じ分けていました。最後は、子どもを養子に出すという選択肢まで準備されていました。アメリカのTVドラマの中では、子どもを育てられない場合に養子縁組するという話はよく見ますが、日本でもその選択肢を考える若者がいることに驚きました。



### <事例3>

妻に国内留学の話が出た設定です。検討した全てのグループが、夫が子どもと残って、妻を留学させることを結論として出しました。夫ひとりで育児は厳しいと判断し、育児サポートとして、両親や外部サポート、家政婦さんに依頼するという対策を立て、妻が留学をあきらめるというケースは出ませんでした。

学生から「母親が育児をするのと、父親が育児をするのとでは、その質に差が出るのか」という質問が挙がりました。

今後、共働き、共家事、共育児が定着していくれば、「どちらが育児をする方が良質な育児ができるか」ということは問題にはなりませんし、愛情を持って子どもに接すれば、その子にとって良い育児ができると思います。しかしながら、女性にも男性にも、今なお「育児は女性がするものだ」という性別役割分担意識に基づく発言が見受けられたことに課題を感じました。

### <先輩医師のコメント>

- ・子どもが病気の時は、親でも他人でも、なかなか引き受けられず、病児保育施設が一番頼れる
- ・妻は産んで、夫は子育てという分業ができている
- ・せっかく国内留学で関東に行くのなら、家族揃って行って、夫も関東で研修をしてはどうか



麻酔科  
岡田 恭子 先生



熱研内科  
泉田 真生 先生



総合診療科  
依田 彩文 先生



耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
木原 千春 先生

## ロールモデル医師の講演②



第二内科・呼吸器内科 助教  
中富 克己 先生

異職種(報道機関の記者)で管理職のパートナーとお2人のお子さんがいらっしゃいます。キャリア継続のために各自転勤し、同居と別居を繰り返された経緯をお話しいただきました。同居をするために職場に相談をしていたことで、勤務地を配慮してもらったことに感謝されていました。ご夫婦が仕事も、家族生活も大事にされていること、また周囲の方へ理解してもらう努力をされていることがよくわかりました。

## 特別講演 「京都府立医大の取り組み」



京都府立医科大学男女共同参画推進センター センター長  
京都府立医科大学大学院病態分子薬理学教室 教授  
矢部 千尋 先生

矢部先生の研究紹介、大学の女性研究者支援モデル育成事業「しなやか女性医学研究者支援みやこモデル」立ち上げの経緯、学内病児保育施設について、ドイツの大学のダイバーシティ推進動向、卒後進路の選択肢として、「基礎医学研究者のススメ」のお話しがありました。研究者は自由度が高く、ワークライフバランスがとりやすいなどの紹介や矢部先生が考える「研究者に向いているタイプ」、基礎医学研究者の要件についてなど、グローバルな視点からお話をいただき、大変勉強になりました。

### <学生の感想>

- ・とても興味深かったです。研究と多くの科への選択肢が増えたように感じます。(男性)
- ・研究をずっとされている女性医師の先生のお話が聴けて良かったです。出産・育児を優先するならば研究という道も選択肢に残します。(女性)
- ・医師になったときの生活がより現実味をもって伝わってきたので、自分が働き出したときの参考になった。(男性)
- ・いろいろな選択肢があることがわかりました。(女性)
- ・私も将来医師同士で結婚したときの子どもの育て方に不安を持っていたが、今回の講義でその不安が少し解消された。(男性)

## <学内協力医師の感想>

### ●麻酔科 岡田 恵子 先生

シナリオ・スライド・演技すべてよく考えられていて爆笑しながら聞いていました。いろんなシナリオがありましたが、【ワークライフのバランスが取れている=必ずしも二つがイーブンである】ことではなく、家族形態、年代で刻々と変わっていくものだと思います。みんなにベストの方法はないけれども、それぞれにベターな方法を探して、マイベストにたどりつく頃には子育てが終わるのかもしれない。であれば、ワンオペ育児(介護)で母親一人がしんどいのではなく、周りの人みんなを巻き込んで、お母さんたちが笑っていられるような環境をサポートしたいなあと改めて感じました。

### ●熱研内科 泉田 真生 先生

学生ならではの発想に毎回楽しませてもらってる。多くの人は、育児とキャリア形成時期が重複する。(仕事と両立させなくてはならない何らかの事情というのは、おそらく育児ばかりじゃない。)どちらも中途半端になる、どちらかに集中しようか、と思う日が必ず来る。その都度、やりたいこと、やるべきこと、やれること、天秤にかけていろいろ考えながら選択を繰り返す。そんな時期はどれだけ医者をやっていきたいか、どんな医者になりたいか、そこがちゃんとしないほうが、育児と仕事の両立よりもきつい気がした。

### ●総合診療科 依田 彩文 先生

私が学生の頃は「ワークライフバランス」という言葉さえなじみがなく、もちろんそのような視点で自分のキャリアプランを思い描くような機会もありませんでした。当時21歳の私自身、全く何も考えておりませんでした。卒業したら、医師になってバリバリ働くのが当たり前で、そこに結婚や育児などのライフイベントが影響するなど考えたこともなく、約10年後にその立場になって初めて現実を知りました。

今回の講義では、「女性医師の社会進出・キャリアアップを叶える」という視点での発表が多く、学生のみなさんが男女ともにワークライフバランスをしっかりとと考えていらっしゃることを感じました。私が研修医の頃は、女性医師を取り巻く環境は今より厳しいものだったと思いますが、この10年ほどでの変化を今日実感し、日本の未来は明るいなと嬉しくなりました。

### ●耳鼻咽喉科・頭頸部外科 木原 千春 先生

将来の自分の姿を考えるきっかけとなるよい講習会だったと思います。医師の仕事を続けるには、まずは自分の興味のある科を選択することが大切です。これからポリクリ、高次臨床実習など臨床の現場に触れる際に、各科の先輩方に経験談を沢山聞くと参考になります。

とはいって、実際には自分が子育てに直面するまでわからなかつたことの方が多いです。行き詰りそうになったときも、家族や周囲に必ず手を差し伸べてくださる温かい方がたくさんいます。これまで沢山甘えさせてもらい、感謝しています。今後、自分にゆとりができたら、後輩達のお手伝いができたら、と考えています。

医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート調査結果は、本誌P46参照

## 4) キャリアアップセミナー(全2回)

各テーマについて基礎から学べる初心者向け講座です。長崎大学病院の医局で評価の高い先生をお招きし、それぞれの視点からわかりやすく解説していただきました。

### 第1回「学会での英語プレゼン基礎編」



レンタル可 (注)スライド除く、配布資料は提供可

日 時：平成29年7月25日(火) 18:30～19:30

講 師：第二内科 助教 山本 和子 先生

場 所：長崎大学病院 多目的研修室

今年で3年目を迎えるキャリアアップセミナーの第1回は、第二内科の山本和子先生による英語プレゼンテーションの講義でした。今回は、他院からの参加や、当日飛び入りもあり、講演テーマへの関心度や山本先生の人気の高さがうかがえる総勢25名の参加でした(医師・歯科医師・技師・理学療法士・他)。

帰国子女で、医師になってから4年間ポスドクとしてアメリカ留学されており、流暢な英語で羨ましい限りでした。大学院生の時に初めて国際学会に参加されて以降、50回以上の英語プレゼンを経験されており、たくさんの例文や約10分のプレゼンを想定したスライド作成法、演者としての礼儀作法やプレゼン力を高めるコツなど、大変わかりやすく説明していただきました。

自分の話しやすい言い回しに変えること、予行練習でブラッシュアップをしっかりと行い、本番でのライブ発信を楽しみましょう! と、励ましていただきました。



講師：山本 和子 先生



講義風景

### 参加者の声

・大変わかりやすく、やる気をおこさせてくれる素敵なお講演でした。

・特に(演者として)質疑応答の(対処方法の)ところが役に立ちました。国際学会に行く勇気が持てました。

## 第2回「超初心者のための疫学統計入門」 レンタル可 (注)スライド除く、配布資料は提供可

日 時：平成29年8月4日(金)18:30～19:30

講 師：熱帯医学研究所 臨床研究部門 臨床感染症学 助教 鈴木 基 先生

場 所：長崎大学病院 多目的研修室

第2回のキャリアアップセミナーは、ロンドン大学衛生熱帯医学校で途上国公衆衛生学修士号を取得され、長崎大学熱帯医学研究所の修士課程で統計・疫学などを指導されている鈴木基先生の講義でした。当日参加1名を含め参加者は11名でした(欠席8名)。

疫学統計の基本である、リスクとオッズで【数える】、リスク比とオッズ比とP値で【比べる】、さらにそれを【解釈する】ことについて、詳しく説明していただきました。米国CDCが提供している無料ソフトEpiinfo7を使って簡単な統計計算をしながら、演習を解くことで、解析・解釈の考え方を掴むことができました。

これまで「P値が低いことで、有意差があると解釈していたことが、実は正しい解釈ではない」ということを初めて知りました。非常にわかりやすい講義で、「また来年も鈴木先生に教えていただきたい」という声が挙がりました。



講師：鈴木 基 先生



講義風景

キャリアアップセミナーを受講している間、「イブニングシッター」をご利用いただき2名のお子さんをお預かりしました。



### 参加者の声

・統計学が身近なものに感じられた。実際の職場で実用してみようと思った。身の回りの数字で試してみたい。非常にわかりやすかったです。

・大変わかりやすいお話しでした。系統立てて更に講義していただきたいと思いました。

## 5) 医学生、研修医等をサポートするための会 ～医師のワークとライフをきいてみよう!ロールモデル探し～(全2回)

### 第1回 長崎大学病院開催

日 時：平成29年9月29日(金) 18:30～20:00  
 場 所：長崎大学病院1階 教職員専用ラウンジ タリーズコーヒー奥  
 対 象：働き方や両立に関心のある医学生、研修医、または県内で働く  
 　　子育て中の医師  
 主 催：長崎県医師会  
 共 催：日本医師会、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター

#### <プログラム>

- ・開会挨拶 メディカル・ワークライフバランスセンター長 伊東 昌子 先生

- ・主催者挨拶 長崎県医師会 常任理事 濑戸 牧子 先生

- ・基調講演 「これから働くうえで、大切にしたいこと」  
 　　クラスペディア 代表 吉岡 和佳子 氏  
 　　(ワークライフバランスコンサルタント)

- ・ワークライフバランス推進員の紹介  
 　　総合診療科 中道 聖子 先生  
 　　医療教育開発センター 松島 加代子 先生  
 　　移植・消化器外科 崎村 千香 先生  
 　　耳鼻咽喉科・頭頸部外科 木原 千春 先生  
 　　熱研内科 泉田 真生 先生

- ・意見交換会

医師のキャリア形成・継続のサポートをするために、現役で活躍されている医師と若い世代が交流できる身近な意見交換会を開催しました。

ワークライフバランスコンサルタントとして、長崎大学のワークスタイルイノベーション(働き方見直しプログラム)に参画されている、クラスペディア代表 吉岡和佳子氏の基調講演や、長崎大学病院でワークライフバランス推進員として活躍する女性医師、医局長、復帰医にご協力いただきました。

参加者は、医学生3名、研修医1名、総勢17名でした。



伊東 昌子 センター長



長崎県医師会 常任理事  
瀬戸 牧子 先生

#### 基調講演 「これから働くうえで、大切にしたいこと」



クラスペディア 代表  
吉岡 和佳子 氏

「医学の道を志したきっかけ」「これからどんな医師になりたいか」について、ペアでワークを行いました。「今後、岐路に立った時、迷い悩んだ時に自分の素直な気持ちで決断すること。責任転嫁はせず、自分が納得したうえでの失敗や成功は、次につながり、前に進みやすくなるはず。」と話されました。

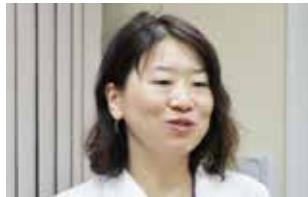
## ワークライフバランス推進員の紹介



総合診療科  
中道 聖子 先生



医療教育開発センター  
松島 加代子 先生



移植・消化器外科  
崎村 千香 先生



耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
木原 千春 先生



泌尿器科 医局長  
木原 敏晴 先生



熱研内科  
泉田 真生 先生



原研内科 復帰医  
橋本 美紀 先生



事前質問がたくさん挙がったので、長崎市内病院のワークライフバランス推進員にアドバイスのご協力をいただき、まとめた「Q&A一覧」と、センター制作冊子「両立応援HANDBOOK」を進呈しました。  
参加者は、基調講演や先輩医師の経験談とアドバイスに、じっくりと耳を傾けられていきました。

### 「Q&A一覧」抜粋

#### Q1.結婚や出産のよいタイミングがあるか

A1.どのタイミングでもなんとかなる。

A2.ある程度臨床能力に自信をもてるようになってからと考えたが、ケースバイケース。

#### Q2.結婚するならパートナーは医師がよいか

A1.以前は、女性医師のパートナーは男性医師がほとんどだが、今は医師以外の方と結婚しているほうが多いかもしれない。  
職業で決めるのではなく、仕事内容を理解してくれ、2人で協力して家庭を築いていくという意思があれば、それが一番。

#### Q3.研修中の出産・子育ては可能か

A1.可能。異動のタイミングやたすきがけ先(県内研修先病院)等が関連するため、事前に相談しておくと、個々への対応が可能。

A2.やってきた医師はたくさんいると思う。医療教育開発センターに相談するとよい。地元を離れて研修すると少し大変かも。ロールモデルを探して話を聞くことが一番。

#### Q4.医師として働くうえで、英語の重要性

A1.外国人が来る部署、英語の成書を読むことが多い部署なら、英語が苦手だと辛いかもしれません。

A2.絶対に必要。論文を読むにも、書くにも外国の患者さんを診療するにも。時間があれば、英語にふれあう機会を設けたほうがよい。

### 参加者の声

・自分の将来に不安があったが、お話を聞いて安心できた。

・さまざまなお話が聞けて嬉しかった。時間が短く感じられた。他の医師とも話してみたかった。

・みんなが、さまざまな両立の仕方をしていて、自分も頑張ろうと思えた。

## 第2回 長崎医療センター開催

日 時：平成30年1月26日(金) 18:00～19:30  
 場 所：長崎医療センター 人材育成センター 葛蒲ホール  
 対 象：働き方や両立に関する研修医、または県内で働く医師など  
 主 催：長崎県医師会  
 共 催：日本医師会、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター、  
     長崎医療センター教育センター



### <プログラム>

- ・主催者挨拶  
長崎県医師会 常任理事 濱戸 牧子 先生
- ・取組発表 「あじさいプロジェクト概要説明」  
長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター  
副センター長 南 貴子 先生
- ・経験談1 「キャリア形成期におけるワーク・ライフバランス」  
長崎医療センター 総合診療科・総合内科 レジデント 川原 知瑛子 先生
- ・経験談2 「男性医師×育休」  
長崎医療センター 総合診療科・総合内科 専修医 鳥巣 裕一 先生
- ・経験談3 「点と線」  
秋櫻醫院(在宅療養支援診療所、大村市) 院長 石田 一美 先生
- ・ワークライフバランス推進員の紹介  
長崎医療センター 麻酔科 山口 美知子 先生  
市立大村市民病院 救急総合診療科 柴田 由可 先生
- ・意見交換会



長崎県医師会 常任理事  
濱戸 牧子 先生



南 貴子 副センター長

大村地区で働きながら子育てしている医師3名によるキャリア形成や仕事と生活の両立に関する経験談の発表と、各病院のワークライフバランス推進員として活動されている医師2名から指導や助言をいただきました。  
 参加者は、研修医6名、医師1名、総勢17名でした。

### ワークライフバランス推進員の紹介



長崎医療センター  
麻酔科  
山口 美知子 先生



市立大村市民病院  
救急総合診療科  
柴田 由可 先生

### 経験談1 「キャリア形成期におけるワーク・ライフバランス」



長崎医療センター 総合診療科・総合内科 レジデント  
川原 知瑛子 先生

「医者として武者修行の時期」に出産・育児が重なりながらも、資格試験に挑戦・取得されてきたそうです。

### 経験談2 「男性医師×育休」



長崎医療センター 総合診療科・  
総合内科 専修医 鳥巣 裕一 先生

長崎医療センターの男性医師で初めて育児休業を取得されて、「とってよかった」と話されました。

### 経験談3 「点と線」



秋櫻醫院(在宅療養支援診療所、大村市)  
院長 石田 一美 先生

「これまで経験してきた様々な点と点がつながり、今は線となり道筋になっている」と話されました。

長崎医療センターに勤務する参加者7名(初期研修医の男性1名、初期研修医の女性4名、後期研修医の女性1名、診療科医の女性1名)は、様々な経験談を聞くことができた本会に、とても満足していました。



会の様子



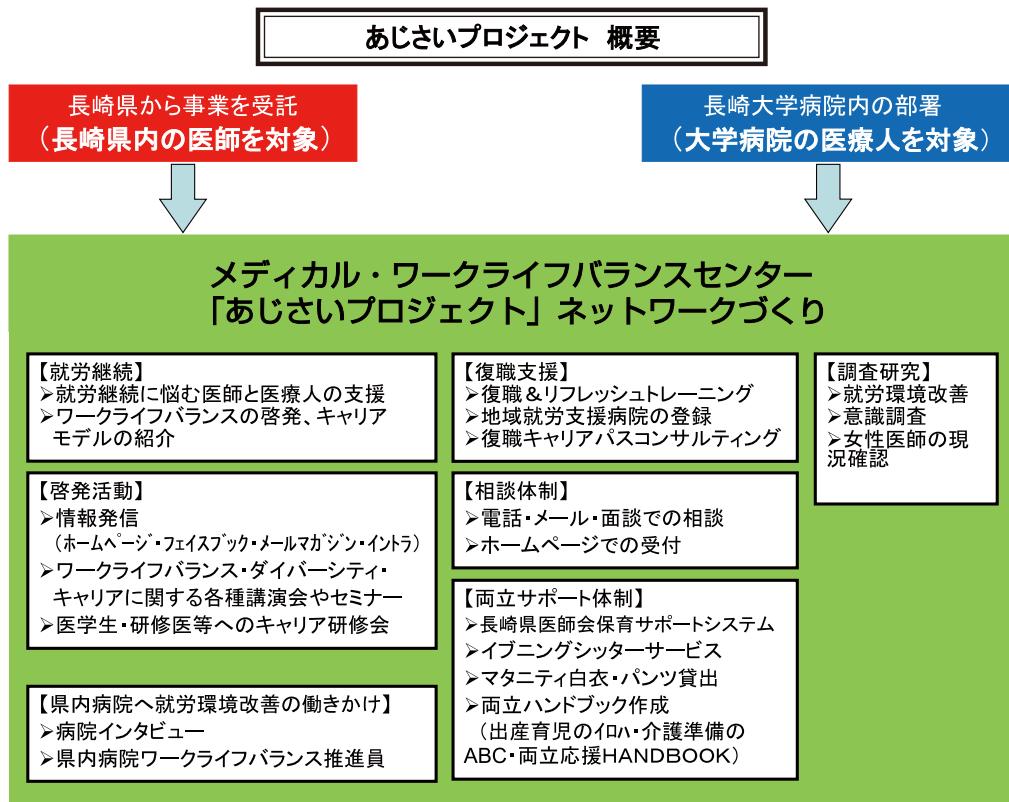
託児室の様子

#### 参加者の声

・色々な先生方の経験談を聞いてとても参考になった。サポート体制の存在は心強いと思った。  
・結婚後も細々と仕事を続けられたらいいなと思った。素敵なお手本の先生が見つかった。

・講演の内容が想像していたよりも具体的で大変参考になった。漠然とした不安感が、育児や出産に対してあったが、少し解消することができた。

## 6 ) 女性医師ネットワークづくり



### あじさいプロジェクトデータベースの管理

個人情報や長崎県内病院の住所録など、様々な情報を「あじさいプロジェクトデータベース」で一元管理しています。イベント・講義の参加履歴、サポート利用の有無、メールマガジン登録の有無や勤務先等、多方面の情報源から得た内容も随時更新しています。

※個人情報の取扱いは厳重にし、保管・管理を行っています。

### データベース登録状況 (平成30年2月1日時点)

#### 全2,528件登録

(内訳)長崎県内病院	150拠点
女性医師	1,412名(県内勤務か在住867名・その他545名)
その他	966名

※今年度把握した女性医師109名

みなさまに役立つ情報やサポート提供のため、今後も各種調査やセミナーのお知らせなどをメールマガジンを通して配信していきます。

データベースの精度を高めていくためには、最新の情報へ登録&更新をしていく必要があります。センターが実施する活動や調査を「あじさいプロジェクトデータベース」に蓄積していく、様々なことが把握できるようになることを目指します。

だれもが働きやすい環境づくりのために、「あじさいプロジェクト」の活動にご賛同いただきますとともに、ネットワークづくり・データベースづくりによって、今後さらなる支援の輪が広がりますよう、情報提供のご協力の程よろしくお願いいたします。

## 7) 輝く卒業生インタビュー

### 輝く卒業生インタビューラインアップ

\*インタビュー全文は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。



#### VOL.1

**瀧原 圭子 先生**

- ・大阪大学 副学長・保健センター長
- ・大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学教授(兼任)

平成27年6月インタビュー



#### VOL.2

**黒崎 伸子 先生**

- ・黒崎医院院長
- ・ながさき女性医師の会 副会長
- ・国境なき医師団日本 監事
- ・日本BPW(Business & Professional Women)連合会 監事
- ・長崎大学大学院国際健康開発研究科 非常勤講師

平成27年8月インタビュー



#### VOL.3

**鈴木 真理 先生**

- ・政策研究大学院大学 保健管理センター 教授

平成27年10月インタビュー



#### VOL.4

**瀬戸 牧子 先生**

- ・長崎県医師会 常任理事
- ・ながさき女性医師の会 会長
- ・社会医療法人春回会 長崎北病院 副院長
- ・長崎医療技術専門学校 非常勤講師

平成27年11月インタビュー



#### VOL.5

**有井 悅子 先生**

- ・有井小児科医院院長
- ・京都造形芸術大学芸術学部 子ども芸術学科 教授
- ・京都小児科医会理事
- ・京都市学校医会顧問
- ・京都府保険医協会理事
- ・NPO法人子どもセンターのさん 理事

平成28年1月インタビュー



#### VOL.6

**福田 友子 先生**

- ・医療法人 ふくだこどもクリニック院長

平成28年4月インタビュー



#### VOL.7

**濱田 千江子 先生**

- ・順天堂大学腎臓内科学講座 准教授
- ・順天堂大学男女共同参画推進室 女性就労修学環境支援部門 委員
- ・日本成人病学会・日本透析医学会・日本腎臓学会 評議員

平成28年6月インタビュー



#### VOL.8

**芦刈 伊世子 先生**

- ・地域連携型認知症疾患医療センター センター長
- ・あしかりクリニック 院長
- ・東京都精神神経科診療所協会 副会長
- ・日本総合医学会 副会長

平成28年10月インタビュー



#### VOL.9

**荒木 貴子 先生**

**NEW**

- ・ミネソタ大学 糖尿病・内分泌代謝部門 Assistant Professor

平成29年9月インタビュー



#### VOL.10

**高見 裕子 先生**

**NEW**

- ・九州医療センター肝臓病センター 肝胆脾外科科長

平成29年10月インタビュー



## 【輝く卒業生インタビューvol.9】 平成29年9月インタビュー

荒木 貴子 先生

・ミネソタ大学 糖尿病・内分泌代謝部門 Assistant Professor

### ＜略歴＞

2000年(平成12年)3月	長崎大学医学部卒業
2000年～	武藏野赤十字病院 臨床研修
2002年(平成14年)～	都立老人医療センター勤務(現:東京都健康長寿医療センター)
2003年(平成15年)～	東京海上日動メディカルサービス株式会社勤務
2005年(平成17年)～	マウントサイナイ・ベイスイスラエル病院(アメリカ・ニューヨーク州) 内科研修
2011年(平成23年)～	シーダーズ・サイナイ病院 内分泌科・下垂体研究室(アメリカ・カリ
2015年(平成27年)	フォルニア州)で研究
2016年(平成28年)～	ミネソタ大学 糖尿病・内分泌部門Assistant Professor

### ●医師を志した時期や理由をお聞かせください。

私が小さい時から、父親は顕微鏡を、母親は山のように科学の本や図鑑を与えてくれました。そういう環境で育ったので、いつも「生命や自然の不思議」などに興味がありました。そして、初めて進学した大学では農学部を選びました。ですが、途上国での実習を経験したことをきっかけに、科学の一部である医学の分野で、「海外に出て、人を助けたい」と思うようになりました。医師を目指しました。

上京して研修を積み、東京海上日動メディカルサービスに勤務していた時に、同職場で勤務されていた西元慶治先生(脳外科医)が立ち上げられた“Nプログラム”(若手臨床医師のアメリカ留学制度)を知りました。

ニューヨークのマウントサイナイ・ベイスイスラエル病院で、若くてやる気のある内科系医師が3年間臨床トレーニングできるプログラムです。1991年から日本人の若手医師を毎年数名ずつレジデントとして採用してもらっています(2017年現在172名)。長崎大学医学部卒業生も私も含めて過去3名が派遣されています。そこで、西元先生のサポートを受けて、USMLE(アメリカ医師国家試験)の勉強をして、ステップ1(基礎)、ステップ2(臨床)に合格し、“Nプログラム”をきっかけとして、2005年にアメリカに渡りました。3年間の研修の後に、内分泌を専門にしようと決め、そのままマウントサイナイ・ベイスイスラエル病院に残り、勤務していました。



### ●これからやりたいこと、今後の予定や夢などはございますか。

下垂体センターをつくって、臨床診療をしっかりと組み立てていくこと、研究を続けていくことですね。ミネソタ州と周辺の北部中西部の患者さんが集まるセンターにしたいです。

また、これからは、何らかの形で、母校や日本の学生さんのお役に立てればと思っています。後輩のみなさんと定期的な交流などができるたら、若い時にいろんな世界を見てあげたりしたいですね。以前、長崎大学の学生さんが来た時は、とことん面倒を見て楽しかったです。ミネソタは安全な場所なので、学生さんに臨床の見学などにも来てほしいですね。



### ●女性医師、若い医師へのメッセージをお願いいたします。

思いついたことは、チャレンジしてほしい!自分で、自分の限界をつくらずに、まずやってみてほしい、そうしたら道は開けると思います。

## 【輝く卒業生インタビューvol.10】平成29年10月インタビュー

**高見 裕子 先生**

・九州医療センター肝臓病センター肝胆膵外科科長

<略歴>

1996年(平成8年)3月	長崎大学医学部卒業
1996年4月～	長崎大学第二外科(現 移植・消化器外科)入局 長崎大学病院、九州医療センターにて研修、その後長崎県内の病院に外科医として勤務
2000年(平成12年)8月～	国立療養所村山病院(現 国立病院機構 村山医療センター)勤務
2002年(平成14年)4月～	九州医療センター肝臓病センター外科専任レジデント
2002年9月～	同外科スタッフ
2011年(平成23年)7月～	同肝胆膵外科科長

●医師を志した時期や理由をお聞かせください。

九州大学薬学部を卒業しました。私は父親の許しがもらえず、地元(愛媛県)に帰り、父親の友人の病院で薬剤師として働き始めました。父親の友人の院長先生のお父様は理事長先生でした。理事長先生は、脳梗塞を患わっていたのですが、「理事長先生じゃないとダメ」といわれる高齢の患者さんが来院すると、後遺症のある足で、歩いてこられて、立派な診察室は愛媛大学からきている若い先生に譲り、ご自分は窓際に折りたたみ椅子を2つ置いただけの場所で、患者さんの手を取って話を聞いておられました。私はその姿を見て、「絶対あの人じゃないといけない、あの医師の仕事をやっていいたい何だ?」と思いました。理事長先生の仕事に対する姿勢を見てから、薬剤師の仕事は、「薬の場所さえ覚えておけば、誰でもできる仕事じゃないか?」と悔しくてたまらなく感じました(当時は患者さんに対する服薬指導などがない時代)。このままでは親の言ひなりで終わってしまうと思い、頑張ったら医学部に行けるのではないかと考え、長崎大学を受験することにしました。結局、親の望みを叶えず、迷惑をかけたという後ろめたさはあるが、「医師として患者さんのためにきちんと生きることで免罪符をもらうというか、存在意義を高めたいと思っています。



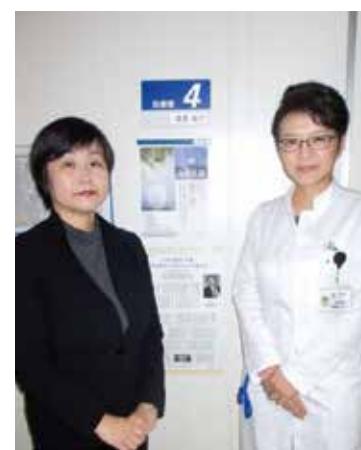
●これからやりたいこと、今後の予定や夢などはございますか。

手術については、後輩への教育をきちんとしていきたいし、腹腔鏡下手術など最新のこととも勉強したいですね。また、具体的ではないですが、現在のチームを維持して、マイクロ波での手術(MCN)が、移植や肝切除ができない患者さんの選択肢として継承され、この1施設だけではなく、日本中に広まって欲しいですね。



●女性医師、若い医師へのメッセージをお願いいたします。

最近、外科に勧誘すると、「人が死ぬ科は嫌です」「急変する科は嫌です」という人がいます。私からすると、何のために医師になったのかと思います。どの科でも、命を預かることができる医師になって欲しいと思います。一生懸命になると「先生熱いですね」とか、患者さんのために熱心に時間を費やすことが「かっこ悪い、古い」というイメージを持っていると感じます。決してそうではなくて、本質は患者さんのために時間を使うことこそが私はかっこいいと思っているので、その気持ちを厭わない医師になって欲しいですね。これから、新専門医制度が始まりますが、いろんなことを学んで経験することは、時間の無駄にはなっておらず、「土台が広い方が高い建物が建つ」(ボスの言葉を引用)という、プラス思考で頑張ってほしいですね。





## 2 両立サポート

育児や介護などのライフイベントを迎えて、安心して働けるようサポートしています。

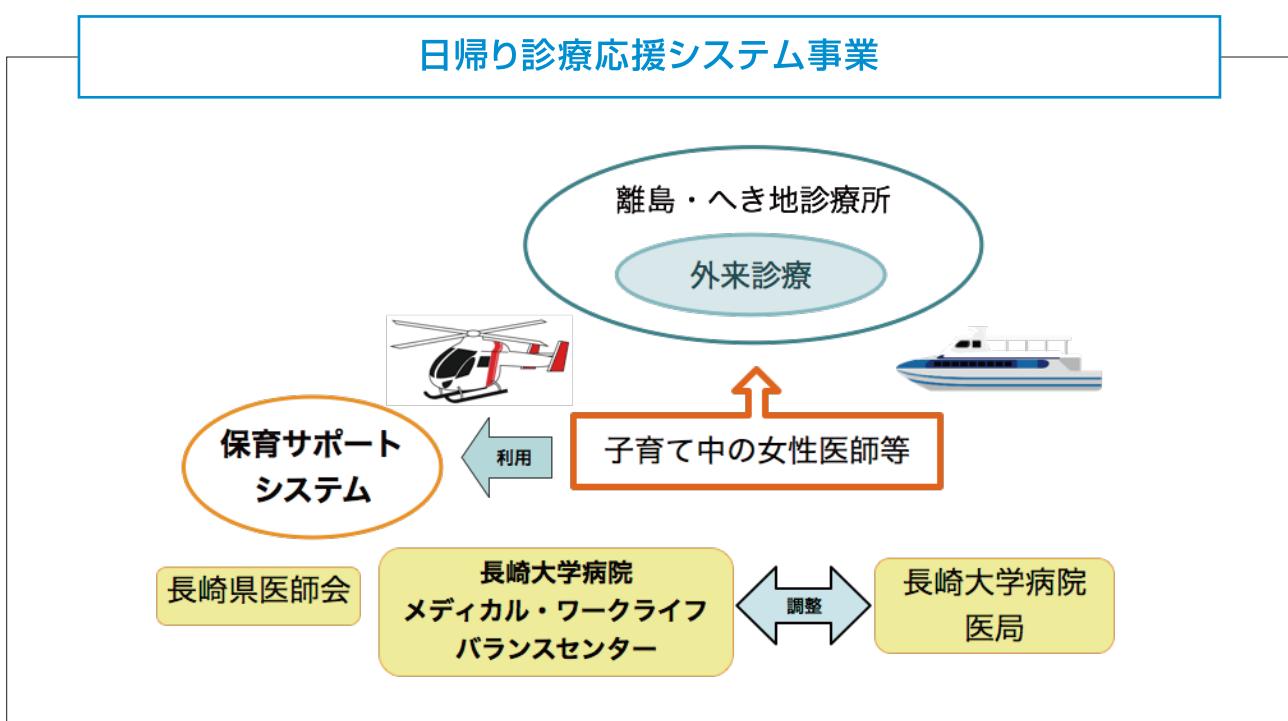
### 1) 日帰り診療応援システム

#### 日帰り診療応援システムとは?

子育て中の女性医師等を派遣し、長崎県内の離島・へき地の外来診療を支援するシステムです。 「平成29年度地域医療介護総合確保基金」の一環として、子育て中の女性医師等が活躍できる場を提供し、診療経験の継続により診療能力を維持することを目的としています。一方で、専門の外来診療を十分に受けることができない状況にある離島・へき地への地域貢献にもつながると期待しています。

ヘリコプター(長崎離島医師搬送システム 通称NIMAS)等を利用して日帰りでの外勤が可能となり、「保育サポートシステム」と連携してバックアップすることで、勤務時間に制約のある子育て中の女性医師でも、フライトが可能な日の出から日没まで安心して診療に従事できます。

関心を持たれた女性医師の方は、センターまでお問い合わせください。



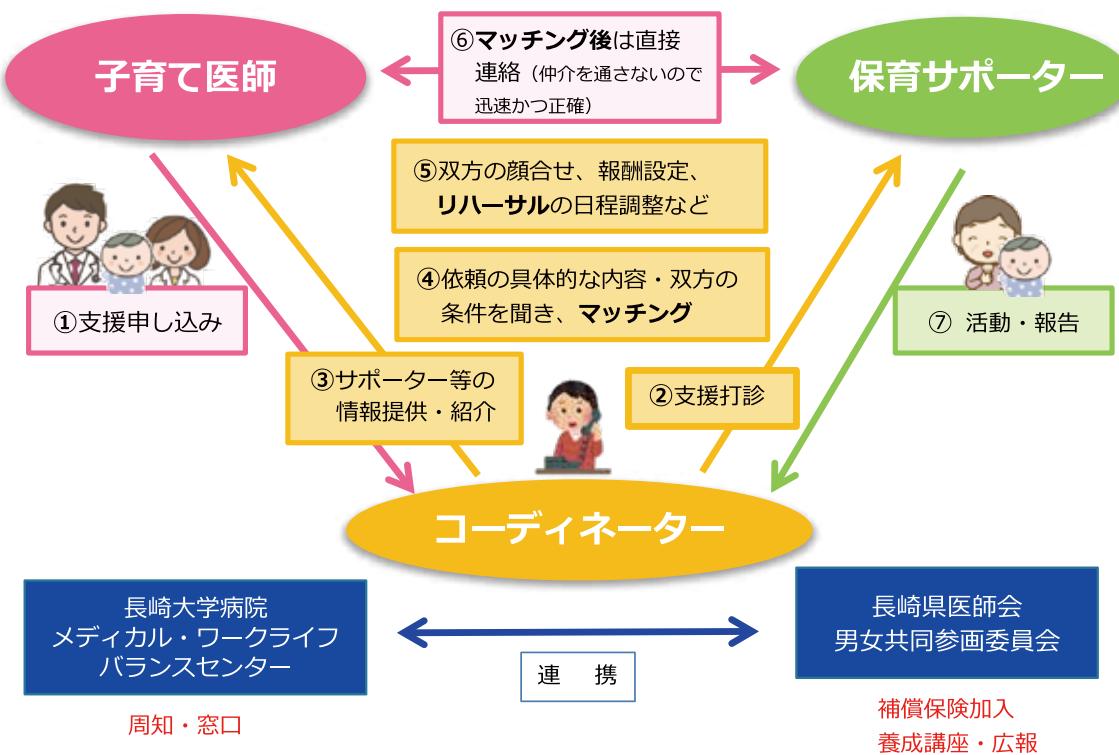
### 2) 保育サポートシステム

#### 長崎県医師会保育サポートシステムとは?

長崎県の補助により、長崎県医師会と長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターが協働で「長崎県医師会保育サポートシステム」を設置し、運営しています。

育児支援を必要とする子育て医師に対して、コーディネーターがそれぞれのニーズに沿った保育サポートの情報提供・紹介を行うことを目的としています。迅速かつ細かい要望に対応するために、長崎県医師会にコーディネーターを配置し、医師、センター双方に対応しています。

平成26年にモデルケースとして、長崎大学病院の医師を対象にスタートし、平成27年7月からは、「長崎市」「西海市」「時津町」「長与町」、さらに平成29年度からは「諫早市」「大村市」で勤務または居住している医師へと対象を拡大しました。



### 実際の利用ケース

- ①学校から習い事、保育施設への送迎(必要に応じて食事の提供)
- ②保護者の代わりに保育施設(学童保育も含む)へお迎えに行き、その後帰宅まで保育
- ③仕事、学会、講義および私用などで保護者が不在の間の保育(医師宅またはサポートー宅にて)
- ④仕事から帰宅後の慌ただしい時間に、保育、家事両面のサポート
- ⑤医師宅またはサポートー宅での病児保育(軽症)、病児保育施設へのお迎え
- など、利用者とサポートーが相互に相談しながら、各家庭のニーズに対応しています。

### 利用者の声

・(病児保育に預けていた時のお迎えサポート) 病児保育のお迎えが18時までなので、子どもの心配と仕事を切り上げられるかで落ち着かないことが多いのですが、昨日はサポートーさんにお願いしていたので、仕事に集中することができました。サポートーさんはとても感じの良い方だったので、安心しました。これからもお願いしようと思います。

・(保育園への送迎サポート) サポートーさんには何回かお迎えお願いしていますが、息子も好きみたいで、「明日“○○ママ”(サポートーさんのことを息子はこんなふうに呼びます)がお迎えくるかな?明日も?明日も?」と言われます。素敵なおとお会えてよかったです。

### サポートーの声

・(保育サポートーになって3年)ある時、学会に行かれため、通常のお迎えから夕食に加えて、入浴、就寝までサポートをしました。4才と1才7ヶ月の兄妹、不安だったでしょうが、3人で遊んだりお風呂に入ったり、ずっと笑って過ごし、そのまま夢の中へ。後から「おかげ様で無事に出張に行くことができました」と感謝の言葉をいただきました。サポート以外でも、運動会やお遊戯会を見に出かけたりと、まるで気持ちは「親戚」です。これからもご縁に感謝しながら、子どもたちの成長を見守り、働くママたちを応援していきたいと思っています。



## 保育サポーター研修会

サポーター登録の要件として、所定の研修会を受講することにしています。平成29年度は諫早市、大村市の研修会も実施しました。

**諫早会場** 平成29年7月27日(木) 14:30～17:00  
諫早医師会 参加者10名

**長崎会場** 平成29年8月 3日(木) 14:30～17:00  
長崎県医師会館 参加者18名

**大村会場** 平成29年8月10日(木) 14:30～17:00  
大村市医師会 参加者10名

### (1)保育サポートシステム概要

長崎県医師会 常任理事 濱戸 牧子 先生

### (2)子どもの心の発達

出口小児科医院 臨床心理士 中村 晃子 先生

### (3)子どもの病気とホームケア

—子育て神話のウソ、ホント？—

出口小児科医院 院長 出口 貴美子 先生

※(2)と(3)はDVD視聴

## 長崎県医師会保育サポートシステム 保育サポーター募集！

### 子育て医師をサポートしてくださる方を募集しています！

身近に子育てを手伝ってくれる人がおらず、仕事との両立に日々奮闘している医師がいます。そんな医師たちを市民の方で支えることができたら、2014年「長崎県医師会保育サポートシステム」は生まれました。子育て医師を支えてくださる**保育サポーター**、募集中です！



### ▶保育サポーターとは

#### Q. どんなことをするの？

- ・保育園や学校、保育園などの通い保育
- ・一時おそれり（あそかり保育などは認可保育）
- ・保育園の見守り
- ・施設や調理などの奉仕支援（希望者のみ）

#### Q. 資格などの条件は？

- ・子育て経験を実現したいと常ってくださいあるお年寄りの方で、南風呂地区（上若松）を受けていただけの方なら、どなたでも登録していただけます。
- ・医師士、幼稚園・小学校教諭、看護師の資格をお持ちの方は、研修を受けなくても登録できます。

#### Q. 相手はどう決めるの？

- ・コーディネーターが、医師の希望とサポートの条件を考慮して登録します。
- ・面接として、面接会わせは実施します。

#### Q. 時間はどれくらい？

- ・就勤可能な曜日や時間帯を意識していただければ、それに合わせてコーディネートします。
- ・おおむね土～火曜日の午前が多めです。

#### Q. 稼働はありますか？

- ・あります。（標準賃は1時間1,000円/交通費別途）

#### Q. 万が一に備えての保険はありますか？

- ・あります。半額負担で加入費用等は保育システムで負担しますのでご安心ください。（保育料は対象外）



研修会風景

## 保育サポータースキルアップ研修会

研修会を通してサポーターのスキルアップをめざします。

### テーマ：「子どもの救急救命（1次）」

日 時：平成30年3月2日(金) 13:30～15:00

講 師：長崎市北消防署 第2警防課 職員

場 所：長崎県医師会館 2階 救護室

## サポーター募集

仕事を続けながら子育てを楽しみ、医師としてのキャリアも積み上げたい、そう願う医師の身边に「困ったときには手伝いますよ」と言ってくれる人がいれば、医師は生活でも仕事でもより輝けるはずです。子育ての経験や保育に関する資格を持っておられる市民の皆さんに、サポーターとして登録・活躍していただくことで、長崎の医療を少しでも元気にできたらと考えます。

・サポーター登録数**119名**（平成30年2月1日時点）

・サポーター募集ポスターとチラシ作成

長崎市、諫早市、大村市の公民館、図書館、地域掲示板などに掲示依頼

長崎市、諫早市の子育て応援サイトに募集記事掲載

## 利用者募集

申込医師累計**63名**(平成30年2月1日時点)

・子育て医師応援キャンペーン10月～11月実施(先着10名に5千円のお試し利用券を発行)

お試し利用券進呈8名、うち利用3名

・平成29年度利用医師実数**22名**

新規登録申込14名、うち当センター窓口経由6名(平成30年2月7日時点)



## 平成29年度利用状況

(平成29年4月～12月)

	平時	時間外	病児保育
利用回数(延べ)	363回	192回	7回
サポートを受けた医師数(実数)	13人	8人	4人
活動したサポート数(実数)	18人	13人	4人

保育センター報酬（標準単価） 標準単価を基準に双方の話し合いで決めます。

	1時間単価／1人
一般保育 月～金 (平時)	9:00～18:00
	上記以外(時間外)
一般保育 土日祝(時間外)	1200円～
病児・病後児保育	一般保育単価+500円
お泊り(土日祝も同額)	10,000円
食事	500円

※2人目からは半額

※病児・病後児保育の場合は半額としない

※当日のキャンセルは予定報酬の半額を医師が負担

## リハーサル

実際の保育活動の前に、センターと利用者・お子さんとの顔合わせや短期時間の保育(慣らし保育)、また、必要に応じて保育園への挨拶、場所確認をおこなうことを「リハーサル」と呼んでいます。利用者とセンターさんの不安を取り除く一助となり、大変好評です。

## 子育て医師のための保育サポートハンドブック

ご希望の方は、長崎県医師会、または長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターまでご連絡ください。

### <掲載内容>

- ・長崎市、長与町・時津町、佐世保市、島原市、諫早市、大村市の自治体の子育て支援情報
- ・長崎県内病児保育施設の連絡先、申込方法、料金、利用時間など
- ・長崎県内ファミリーサポート事業一覧
- ・シルバーハンドブック
- ・急な病気のときの窓口一覧





### 3) イブニングシッターサービス

大学病院内で夕方から実施される会議・勉強会等への参加を可能にするために、託児の手配を行います。

経験豊富な保育センターの方が保育にあたり、お子さんの月齢や託児数によって十分な人数を手配いたしますので、大切なお子さんを安心して預けることができます。長崎大学病院全職員および関連病院に所属する医師が対象となっており、無料で実施しています。 大学院セミナー(坂本地区開催)参加者もご利用いただけます。

#### 【イブニングシッターカー利用者状況】

平成29年4月1日～平成30年2月1日時点

平成29年度	実施数(人)
利用者数(延べ)	7
託児数(延べ)	10

#### 【イブニングシッターカー利用者内訳】

平成25年10月15日～平成30年2月1日時点

職種	利用者数(実数)
医師	18
院外(医師)	5
大学院生	0
看護師	4
研究者	1
事務・その他	3
歯科医師	1
合計	32

#### 【実施概要】

実施期間：平成27年4月1日

～平成30年3月31日までの3年間 ※継続予定

託児場所：長崎大学病院 外来棟4F 小児科キッズルーム

対象児：乳児(3ヶ月以上)～小学生まで ※1日の定員:6名



#### 【託児場所】長崎大学病院外来棟4F小児科キッズルーム



勉強机や  
簡易ベッドの他、  
DVDの貸し出しも  
行っています。



当日のお子さんの  
健康状態など、  
簡単なアンケートを  
記入してもらいます

#### 利用者の声

「復帰後、夜間の勉強会等はほとんど諦めていましたが、今回初めて利用してみました。託児場所ではシッターの方がおもちゃを用意しておいてください、娘もすぐに興味津々で遊んでいました。食事を持参すれば、希望の時間に食べさせておいてくれるということで、とても有難かったです(結局私がいなくなると泣き出し、その後は泣き疲れて寝てしまい、食べられませんでしたが(笑))。シッターの方が優しく気さくな方で良かったです。今後も利用していきたいと思います。(女性・薬剤師)

## 4 ) シッター手配サービス

育児休業中や子育て中の職員の皆さん、大学病院内で行われる会合等への参加を可能にするために、「シッター手配サービス」を行っています。

会合の主催者に代わってシッターの手配を行い、イブニングシッターサービスと同様に無料で実施しています。

### 【実施概要】

- ・実施日時：土日祝・年末年始を除く希望日時
- ・託児場所：会の主催者が長崎大学病院内で託児が可能な会議室等を準備
- ・対象者：長崎大学病院所属の全職員
- ・対象児：乳児(3か月以上)～小学生まで ※1回の定員は要相談

平成29年度は1部署より利用申込がありました。

### 長崎大学病院看護研修センター「復帰支援スクール」(※)

全4回実施し、第3回までの託児数は延べ23名でした。

- 第1回 6月13日(火)・14日(水) 託児数延べ： 10名
- 第2回 9月12日(火)・13日(水) 託児数延べ： 2名
- 第3回 12月12日(火)・13日(水) 託児数延べ： 11名
- 第4回 3月 6日(火)・7日(水)開催予定

(※)「復帰支援スクール」とは、育児休業や長期休業などでしばらく臨床現場を離れていた看護師のみなさんが、不安を感じることなく安心して職場復帰できるよう、平成27年度に看護研修センターによって始められた復帰支援プログラムです。

ご利用いただいた主催者の方からは「参加の後押しにつながっている」と感謝の声をいただきました。



託児室の様子



プレイマット・簡易ベッドの貸し出しも行っています。





## 5) 両立ハンドブック(3種類)

あじさいプロジェクトホームページのお問い合わせ・お申し込みフォームから資料請求ください。



出産・育児のイロハ  
(長崎大学病院職員限定)



介護準備のABC  
～働くあなたのために～



両立応援HAND BOOK  
～ママドクターの復職のために～

### 両立応援HAND BOOK の感想

・一人目の子どもの育児休業中に冊子を頂きました。復帰を控え、「子どもは保育園に慣れるかな?病気になったら?ルート確保失敗しないかな?緊急対応できるかな?今後のキャリアはどうなる?二人目を出産する時期は?」と悶々と不安を抱えておりますが、先輩ママドクターのリアルな体験を拝読し、それが自分だけではないと励まされました。また、育児・家事と仕事を両立するための具体的な生活術についても、とても参考になりました。(医師)

・すぐに役立つ日常生活のヒントが満載で、実用本としても使える内容だと思いました。先輩からのアドバイスや医師の日々の取り組みが励みになるだろうと感じました。ただ、当事者が夫の家事・育児に対して、「参加」「～してくれる」といった言葉使いが散見されるのが残念でした。それに対して、家事・育児は夫も当然やるべきことで「HELP」ではなく「DO」だというアドバイスは重みがありました。実際に、家事・育児を自分事としてこなしている男性医師が登場していて、刺激になるのではないかと思いました。(大学院生)

・夫婦の家事・育児分担表、ファミリーキャリアデザインは、自分でなくパートナーにとっても視覚的に具体的な現状と今後の課題、どう工夫し、どういうペース配分で行けばよいかを示してくれるものになっていると思います。また、冊子を通して様々な立場におかれている医師のリアルな姿や考え方方が伝わりました。多くの人の手元に届くとよいと思います。(医師)

## 5) マタニティ白衣・パンツ貸し出し

長崎大学病院内の医療人と、県内病院で働く医師がご利用になります。  
4月からはマタニティパンツのレンタルも開始しました。これまでに、医師36名を含む計49名にご利用いただき、うち4名が県内病院で働く医師、うち7名がマタニティパンツをレンタルされました。

### レンタルの流れ

当センターへご連絡いただき、申込書をメールでご提出ください。  
→在庫を確認し、貸出可否をメール等でご連絡します。

#### <長崎大学病院内の方の場合>

- ①当センターで試着後、「2着セット」をその場で受け取る。
- ②利用期間終了後、「レンタル終了」と明記して、院内便で「2着セット」を当センターへ返却する。

#### <長崎県内病院で働く医師の方の場合>

- ①「2着セット」と「梱包袋」、「返送用の着払伝票」を宅配便で受け取る。
- ②利用期間終了後、「梱包袋」に「返送用の着払伝票」を貼り、クリーニング済みの「2着セット」を入れて、当センターへ返却する。

## マタニティ白衣を 長崎県内全域に レンタルします！



### マタニティ白衣・パンツの特徴

白衣の左上腕とパンツの左前上部に刺繡であじさいの花と「NAGASAKI AJISAI PROJECT」の文字入りです。

#### <マタニティ白衣>

ダブル仕立てのコートタイプでお腹の膨らみが目立ちません。

#### <マタニティパンツ>

白色と紺色を準備しています。  
お腹周りは柔らかいリブ生地です。サイドのボタンでウエストのサイズを調節することができます。



妊娠30週目

#### 利用者の声 (マタニティパンツ)

・妊娠20週からマタニティパンツのレンタルをさせていただきました。ウエスト部分はリブ仕様で、お腹のサイズに合わせて調節でき、立ったりしゃがんだりの動作や、長時間座っていてもお腹の締め付けがなく、着ていてとても楽です。履いてみると見た目はキチンとした医療用のパンツに見えます。借りた日から愛用しており、非常にありがとうございます。

### 3 長崎県内病院の取り組み

長崎県内の病院における、ワークライフバランス実現に向けた取り組みを紹介しています。

#### 【長崎大学病院の取り組み】

##### 1) 医局長訪問

各診療科の現状を把握するために、各医局を訪問しました。

当センターの目的と活動内容をご案内して、様々なご意見をいただきました。

##### 医局訪問

・期 間／平成29年5月15日～26日(6日間)

・訪問先／診療科や中央診療部の医局長 24名

　新任 5名・継続19名

　男性21名・女性 3名

　うち共働き医局長 8名

・訪問者／南副センター長、長崎県医療政策課 長谷川先生、事務補佐2名

日時	医局	日時	医局
5/15(月) 5部署	1. 総合診療科 中道聖子先生	5/22(月) 7部署	14. 熱研内科 田中健之先生
	2. 皮膚科・アレルギー科 富村沙織先生		15. 整形外科 宮本俊之先生
	3. 眼科 松本牧子先生		16. 第一内科 一瀬邦弘先生
	4. 病理診断科・病理部 古里文吾先生		17. 原研内科 澤山靖先生
	5. 産科婦人科 北島道夫先生		18. 心臓血管外科 谷川和好先生
5/16(火) 5部署	6. 循環器内科 恒任章先生	5/23(火) 1部署	19. 救命救急センター 平尾朋仁先生
	7. 麻酔科 村田寛明先生		20. 小児科 伊達木澄人先生
	8. 形成外科 大石正雄先生		21. 脳神経外科 堀江信貴先生
	9. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 陣内進也先生		22. 消化器内科 山口直之先生
	10. 移植・消化器外科 日高匡章先生		23. 放射線科 西田暁史先生
5/19(金) 3部署	11. 第二内科 坂本憲穂先生	5/26(金) 3部署	24. 精神科神経科 山口尚宏先生
	12. 泌尿器科 木原敏晴先生		
	13. 腫瘍外科 矢野洋先生		



面談風景  
眼科 松本先生



面談風景  
泌尿器科 木原先生

## 女性医師実態調査の結果報告

平成29年度の医局に所属する女性医師の就労状況を確認しました。昨年同様、実際の勤務状況と雇用形態を医局長が把握されていないケースが見受けられました。種々の雇用形態・働き方ができるることを医局人事に活かしていただきたいと思います。

医局人事に関わっている女性医師は長崎県内で合計394名でした。そのうち178名は長崎大学病院に勤務中でした(常勤・非常勤すべて含む)。178名のうち、78名は小学生までの子どもをもち、そのうち就学前のお子さんのいる女性医師が62名で、長崎大学病院に勤務する女性医師の約3割は、6歳までの幼児を養育しながら勤務しています。長崎大学病院では勤務環境や医局の体制が整備されているということだと思います。

また、調査結果からは、育児休業取得中の女性医師23名は、全員復帰する意思があり、子育て中でも就労継続できるという意識が定着しつつあると思われました。現在、医局員で離職中(夫の転勤やその他の理由で)の女性医師は5名いるとの情報を入手しました。復帰の際には、当センターへご相談いただきたいと思います。

医局員の中には、非常勤のままで、医局人事から外れている女性医師も見受けられました。育児が理由であることが多いと思いますが、お子さんの成長とともに勤務形態を変更したい方もいらっしゃるかもしれません。一度、医局長から尋ねていただき、必要に応じて当センターの紹介をお願いしたいと思います。

## 勤務環境調査の結果報告

医局の長時間労働を改善するためにすべきことをお尋ねした結果では、働き方改革の実践(IT、インフラ整備、メール・タブレット端末利用等)、効率的な働き方に対する人事評価の導入、教授や管理職の意識改革などが多く挙がりました。

また、以下のような取り組みを行っている医局がありましたのでご紹介いたします。変わらない、変えることができない…と思いがちな医局体制ですが、変える努力は必要です。

- ・終業時間は変えず、医局業務・手術開始時間を遅らせて、長時間勤務を少しでも短縮する。
- ・医局内プレミアムフライデーを月1回設定する。
- ・病棟主治医制からチーム制への変更を検討する。
- ・子育て中の医師に対して免除していた日当直を、土曜の日直から分担してもらうことを始める。

## 今年度の活動紹介

- ・「学生キャリア講習会」や「医学生、研修医等をサポートするための会」の協力医師選出のお願い
- ・「日帰り診療応援システム」のご説明(県から派遣要請のあった診療科のみ)
- ・「長崎県医師会保育サポートシステム」の対象が、諫早・大村地区へ拡大
- ・「2016女性教員アンケート」調査結果から、女性医師の励みになった一言や働き方の工夫の仕方、両立に関する取組事例の全国と長崎大学の比較資料提供

また、女性教員を増やしていく育成の意識づけとして、当センターのホームページ「県内病院のワークライフバランス推進員メッセージ」に、女性教員数を明記することについて、全ての部署からの承諾を得ました。

## イクボス・イクメン関連についてお尋ね

診療科長の「イクボス状況」の質問には、"YES"の回答が多くあり、どの診療科長もイクボス度が高い結果でした。 "NO"の回答が多かったのは、「女性の活躍推進のために何か工夫をしていますか」の項目でした。 女性の活躍推進のために、女性医師に『期待する・機会を与える・鍛える』ことを、ぜひお願いいたします。

◎ご提供いただいた情報は、今後の活動に役立てまいりますので、今後ともご協力の程よろしくお願ひいたします。

## 2) ワークライフバランス推進員

ワークライフバランス施策の一つとして、長崎大学病院では平成25年度から「ワークライフバランス推進員」が各医局の旗振り役として在籍しています。

医局窓口としてメディカル・ワークライフバランスセンターと有益な情報交換や協力関係を築くことで、円滑に職場復帰への道筋を示すことが可能になりました。また、安心してライフィベントを迎える、キャリアを継続できる地盤も固まってきました。

この取り組みを県内病院にも展開し、協力関係づくりを拡充することで、長崎県内の医師が「仕事と生活の両立を図りながら活躍できる」環境のバックアップ体制を構築していきたいと考えます。

平成29年度は、新・鳴滝塾(※)に参加する病院の中からお声かけをしました。

(※)新・鳴滝塾(長崎県医師臨床研修協議会)とは、長崎県内15の臨床研修病院と県が連携して、長崎県での研修を考えている全国の医学生や研修医をサポートするシステム。

### ワークライフバランス推進員がいます！

ひとつ「働き方」を変えてみよう！

カエル！ジャパン

Change! JPN



●●病院

ワークライフバランスは、ワークとライフを相乗効果で充実させようという考え方です。病院にとって、ワークライフバランスを推進することは、職員のやる気アップ、優秀な人材の確保、病院のイメージアップ、柔軟で効率的な組織づくりなど、様々なメリットが考えられます。そこで、メディカル・ワークライフバランスセンターでは、職場内での推進者（旗振り役）となつていただく「ワークライフバランス推進員」を配置しました。

#### ●推進員の役割●

医局内にワークライフバランスを推進するための、相談窓口、情報発信、企画等の役割を担つていただきます。仕事と生活の両立等で気になることがあれば、お気軽にご相談ください。

- 相談
  - ・キャリア、出産・育児、介護等、ワークライフバランスに関する医局員の相談窓口として、カエル・ワークライフバランスセンターの連絡窓口、医局内での情報発信をする。
- 情報発信
  - ・リーグライフハーモニーズの推進に関する問い合わせ、カエル・ワークライフバランスセンターとの連絡窓口、医局内での情報発信をする。
- 企画
  - ・リーグライフハーモニーズの実現に向けた新たな取組をカエル・ワークライフバランスセンターへ提案する。



ワークライフバランス推進員は

先生です！

長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

電話：095-8197-7979

URL：<http://nagasaki-ejisan.jp>



フェイスブック



メルマガ

※長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターが行う「あじさいプロジェクト」は、

長崎県内の医師が仕事と生活の両立を実現するための支援と、その意識醸成を推進するプロジェクトです。

### 1.目的

院内に推進員が在籍することで、若手医師のモチベーション維持や自分らしいキャリアデザインのイメージに役立てられる。さらに、各病院へ波及効果が見込め、「長崎県内の病院は、どこも働きやすい」の魅力を伝え、就労環境の平準化により、県内外からの優秀な人材の確保・定着へとつなげたい。

### 2.対象

長崎県内の病院に勤務する医師

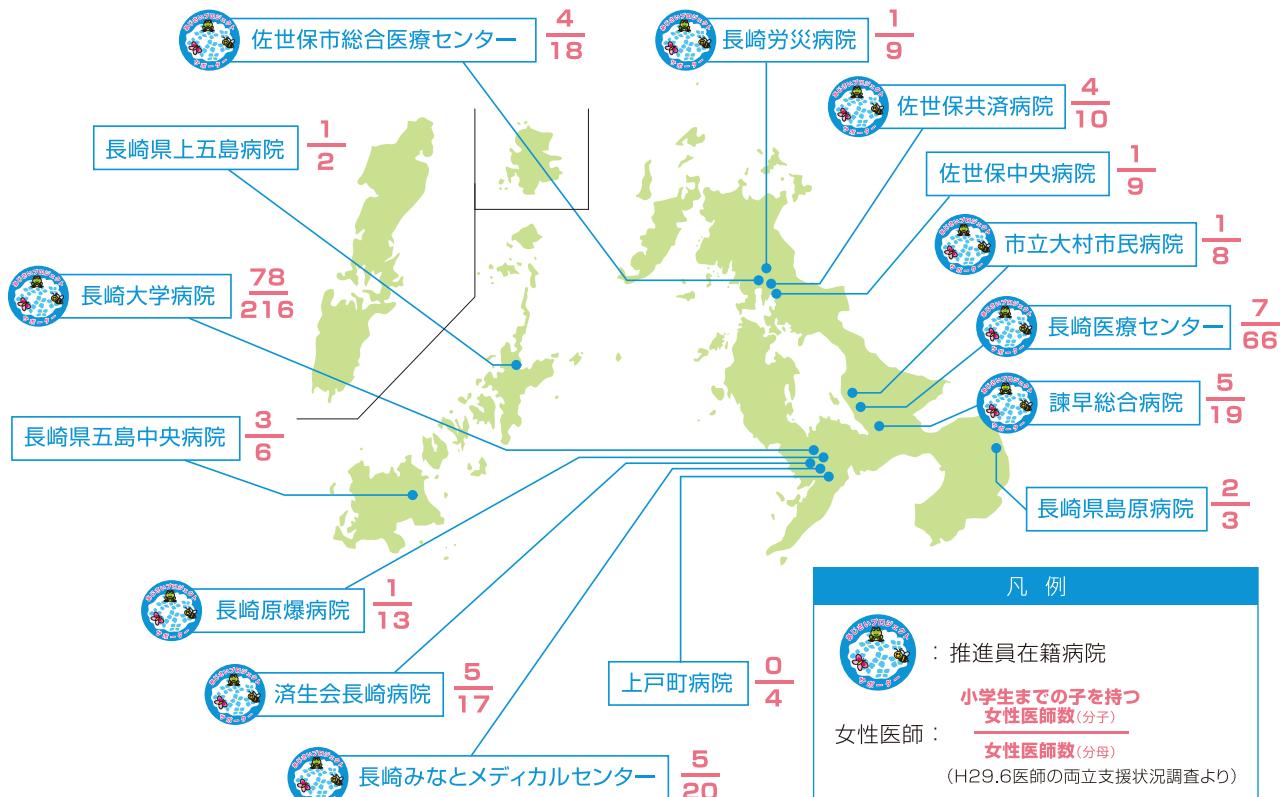
### 3.役割

病院・医局内でワークライフバランスを推進するため、相談窓口、情報発信、企画等の役割を担う。両立に関する病院アピール、センターとの情報交換・医局員への情報発信が主な業務。

推進員として活動したいという思いのある長崎県内病院の医師のみなさまをお待ちしています。どうぞセンターまでご連絡ください。

## 県内10病院にワークライフバランス推進員在籍

新・鳴瀬塾15病院のうち、10病院にワークライフバランス推進員が在籍しています。  
「長崎県内の病院は、どこも働きやすい」の魅力を伝え、県内外からの優秀な人材の確保・定着へつなげたいと考えます。



### ワークライフバランス推進員34名(敬称略)

平成29年7月時点

<b>1長崎みなとメディカルセンター</b> 鎌田 昭江 糖尿病・代謝内科
<b>2長崎原爆病院</b> 猪熊 美枝 麻酔科
<b>3済生会長崎病院</b> 木下 直江 病理診断科
<b>4長崎医療センター</b> 山口 美知子 麻酔科
<b>5市立大村市民病院</b> 柴田 由可 救急総合診療科
<b>6諫早総合病院</b> 田代 香澄 小児科
<b>7佐世保市総合医療センター</b> 野々下 晃子 産婦人科
<b>8長崎労災病院</b> 本田 章子 第二呼吸器科

<b>9佐世保共済病院</b> 木本 文子 麻酔科
<b>10長崎大学病院</b>
①野崎 彩 第一内科・脳神経内科
②牟田 久美子 第二内科・腎臓内科
③赤澤 祐子 消化器内科
④松島 加代子 医療教育開発センター
⑤泉田 誠也 循環器内科
⑥大橋 愛子 精神科神経科
⑦佐々木 理代 小児科
⑧松本 恵 腫瘍外科
⑨崎村 千香 移植・消化器外科
⑩富村 沙織 皮膚科・アレルギー科
⑪梶山 彩乃 眼科
⑫井手口 恵子 放射線科
⑬北島 百合子 産科婦人科
⑭岡田 恒子 麻酔科
⑮泉田 真生 熱研内科
⑯中道 聖子 総合診療科
⑰岡崎 成弘 整形外科
⑱中西 裕美 泌尿器科
⑲木原 千春 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
⑳堀江 信貴 脳神経外科
㉑千住 千佳子 形成外科
㉒谷川 和好 心臓血管外科
㉓波多 智子 原研内科
㉔石田 佳央理 病理診断科・病理部
㉕猪熊 孝実 救命救急センター

## ワークライフバランス推進員意見交換会

### 【第1回】

日時：平成29年9月29日(金)18:00～18:25

場所：長崎大学病院1階 教職員専用ラウンジ タリーズコーヒー奥

推進員参加：9名

医療教育開発センター(松島先生)

腫瘍外科(松本先生)

移植・消化器外科(崎村先生)

産科婦人科(北島先生)

熱研内科(泉田先生)

総合診療科(中道先生)

整形外科(岡崎先生)

泌尿器科(医局長木原敏晴先生)※代理参加

耳鼻咽喉科・頭頸部外科(木原先生)



主な議題 1.各推進員の自己紹介

2.今年度の取り組み紹介

3.「医学生、研修医等をサポートするための会」の事前質問への対応協議

4.活動に関するご意見や推進員として活動するうえでの気づき

### 【第2回】

日時：平成30年1月16日(火)16:30～17:10

場所：長崎大学病院1階 教職員専用ラウンジ タリーズコーヒー奥

推進員参加：8名

第二内科・腎臓内科(牟田先生) 麻酔科(岡田先生)

循環器内科(泉田先生) 総合診療科(中道先生)

腫瘍外科(松本先生) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科(木原先生)

眼科(梶山先生) 原研内科(波多先生)



主な議題 1.各推進員の自己紹介、医局の状況報告

2.今年度の実績報告

3.復職医師の現況確認

4.次年度の企画提案

5.活動に関するご意見や推進員として活動するうえでの気づき

## ワークライフバランス推進員の経緯・総括

平成24年度 『あじさいプロジェクト』スタート。

平成25年度 長崎大学病院内の各医局に医局長推薦によるワークライフバランス推進員が24名誕生。

平成26年度 「推進員意見交換ランチ会」4回開催。この場で挙げられた意見から、医局の週間スケジュール見直しに至ったケースがありました。

平成27年度 「意見交換会」2回開催。春の医局長訪問で休職者情報入手、秋に推進員へ復職状況の確認を開始。

平成28年度 「意見交換会」2回開催。女性医師が多い医局と少ない医局では、子育て女性医師を取り巻く環境が異なることが話されました。

平成29年度 「意見交換会」2回開催。県内の研修医を含む若い医師が多く勤務する10病院に推進員が在籍。

推進員の先生方は、自身の経験が少しだけ後輩のためになれば…というお気持ちで引き受けさせていただきました。少しづつ、連携することも出てきています。各病院の慣習、各診療科の慣習など、見えない壁があるかと思いますが、少しづつ変わっていき、どの病院でも働きやすい環境が整うように協力していきたいと思います。

### 3 ) あじさい保育園

「あじさい保育園」は、長崎大学に勤務する職員の仕事と子育ての両立支援を図るため、平成21年に開設されました。小学校就学の始期に達するまでの乳幼児(定員60名)をお預かりしています。毎週水曜日は、24時間保育も行っています。※食事(おやつ・ミルク含む)、おむつは持参か購入となります。

詳しくは、長崎大学病院総務課までお問い合わせください。TEL : 095-819-7527

メディカル・ワークライフバランスセンターでもお手伝いいたしますので、お気軽にお問い合わせください。



あじさい保育園 利用者職種

部局等	内訳	人数(※)
病院	医師・歯科医師	10
	看護師(助産師)	10
	薬剤師	1
	技術職員	1
	事務職員	4
	大学院生	2
病院以外	教員	2
	事務職員	1
	学生・大学院生	1
合計		32人

平成30年1月1日現在

うち女性医師7人  
うち女性医師1人

あじさい保育園 年齢層別利用児童数

クラス	収容定員	人数(※)
0歳	30人	2
1歳		11
2歳		9
3歳		9
4歳		2
5歳		5
合計		38人

平成30年1月1日現在

※1家庭で複数人の児童利用等により、人数には差異があります。

### 【長崎大学の取り組み】

#### 4 ) 文教おもやい保育園 NEW

平成29年4月、長崎大学は教職員が子どもを安心して預けて仕事(研究)に専念できるよう、文教キャンパス地区に学内保育園を設置しました。坂本キャンパス地区にある「長崎大学病院あじさい保育園」に続き学内保育園としては2園目です。保育園の設置には、内閣府による「企業主導型保育事業」を活用し、学内の既存建物を改修し、自園調理のための調理室、ウッドデッキから続く園庭等を整備しています。

詳しくは、長崎大学ダイバーシティ推進センターまでお問い合わせください。

TEL : 095-819-2889 ホームページ : <http://www.cdi.nagasaki-u.ac.jp/hoiku>



おもやい保育園 利用者職種

部局等	内訳	人数(※)
大学	教員	9
	事務職員	3
病院	看護師(助産師)	1
	技術職員	2
合計		15人

平成30年1月1日現在

おもやい保育園 年齢層別利用児童数

クラス	収容定員	人数(※)
0歳	3	7
1歳		5
2歳		0
3歳		1
4歳		0
5歳		0
合計		13人

平成30年1月1日現在

※両親共に大学職員の場合や1家庭で複数人の児童利用等により、人数には差異があります。

## 【地域病院の取り組み】

5 ) 病院インタビュー ※インタビュー全文は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。

**佐世保共済病院**(インタビュー:平成29年10月17日)

—柔軟な対応で職場環境を改善し、医師確保・定着を目指す—



地元福岡を離れて、安(院内の病児保育室で安心)近(職場から近い舎宅と保育園)の職場を選び、今年4月から赴任してきた二尾愛先生・二尾健太先生ご夫妻に、働き方と子育てについてお伺いしました

Q現在の勤務形態はどのようになっていますか。

(二尾愛先生) 8時頃から17時30分までのフルタイム勤務です。当直は免除ですが、オンコールは金・土・日曜の週末1回を含む計6回です。お産で夜中に呼ばれることもあります。

(二尾健太先生) 他の内科医と同じように当直とオンコールが平等に回ってきます。オンコールの回数は妻の方が多いと思います。

Q.復帰した際の働き方はいかがでしたか。

(二尾愛先生) 子どもを出産した時は福岡赤十字病院所属でした。ただ、九州大学から、人手が足りないので産後6か月で復帰してほしいとの希望があり、当直免除で九州大学に復帰しました。その後、福岡赤十字病院に戻ってからは当直もしていました。中途半端にはできず、なるべく周りの方々の負担を減らしたいという思いもありました。子どもが小さく熱を出しやすい時期だったので、両親に頻繁に保育園へお迎えを頼んでいましたね。

昨年度まで、夫と別々の病院で働いていて、夫は24時まで帰らず、私も20時まで保育園に子どもを預けて、当直も月3回ありました。こちらの病院に来てからは、精神的にもゆとりができました。

Q.仕事と生活を両立するために工夫していることはありますか。

(二尾愛先生) 「病院の敷地内にある舎宅に住んでいる」というのが大きいですね。夫の異動が先に決まり、私がついてきた形で、最初はマンションに住むか迷いましたが、やはり職場に近いのが一番だと思い舎宅にしました。私が子どもを保育園へ迎えに行き、夫にバトンタッチして、すぐまた病院に戻ることができます。

(二尾健太先生) 移動距離が短く、交代がスムーズにできて、時間の調整がしやすいです。

(二尾愛先生) あとは福岡の両親が月に1回、特に私がオンコールの時などに手伝いに来てくれるので、それが非常に助かっています。舎宅は両親も泊まれる広さがあります。

Q.今後のキャリアプランはどうお考えですか。

(二尾愛先生) 私は婦人科ですが、専門医を取った後の、そこからの資格取得のハードルが高いですね。施設認定のいる資格は症例数などの点で、佐世保共済病院では取得が難しいので、子育てが落ち着いて福岡に帰ってからの取得を考えています。2人目の子どもの希望もあります。

(二尾健太先生) 妻には仕事を続けていってほしいと思います。生活面でお互いが協力しやすい体制や環境の整った病院で働くことができればと思っています。

井口東郎院長に、病院として両立支援の取り組みや考えなどについて伺いました

Q.病院として育児・介護支援に関して取り組んでいることはありますか。

女性医師、特に、子育て中の女性医師にも来てもらうためには、一つに託児所の問題があります。佐世保市では認可保育園に入れず待機児童になることは少ないため、病児保育室を5年前から利用できるようにしています。この病児保育室は、病院の財源で運営しています。あとは、やはり女性医師のインセンティブですね。休職して復職してという中で、資格を維持していくためのバックアップが必要だと思います。他にも、管理職を目指す女性医師を増やしていくたいと考えています。



Q.子育て中の女性医師の復職についてのお考えはいかがですか。

子どもを産んだ後、価値観が変わるのは仕方がないことですよね。なかなか産む前のように頑張れない方も多いと思います。その価値観や働き方の変化が計算できなくて難しいですね。志の問題かとは思いますが、やはり第一線に戻ってきてほしい、もったいないと思うんです。

## 畠宏明事務部長に、病院のワークライフバランス実現に向けた取り組みの状況などをお伺いしました

Q.ここ数年の医師数はいかがですか。

(井口院長) 平成29年4月に医師7名を増員しました。佐世保市の寄附講座の予算に組んでいただけたので、九州大学から医師を派遣していただきました。

(畠事務部長) 女性医師数だけでみると、現在9名と増えてきています。



Q.産休・育休や介護休暇を取得した方はいますか。

平成28年度の育休取得者は病院全体で21名で、医師はいません。平成29年度には医師が1名、産休と育休を取得する予定です。ほぼ100%の方が復職されています。介護休暇を取得した職員はいません。

## 井口恵美子看護部長に、看護部の育児・介護支援に関する取り組みをお伺いしました



Q.育児支援の取り組みを教えてください。

医師のみが利用していた院内の病児保育室を、今年11月から看護師も利用できるように拡大する予定です。これまで、OGの看護師が病気・病気回復中の赤ちゃんを預かった時に、対応していましたが、利用頻度が安定しないので、他へ就職してしまいました。そこで、専任で雇うのではなく、外来や再雇用といった院内スタッフで補填するようにしました。利用がない時には通常の業務が充足できます。また、小児科には保育士がいるので、双方で調整しながら協力し合っています。

## 佐世保共済病院に勤務して10年で、今年度からワークライフバランス推進員の木本文子先生にお伺いしました

Q.院内に女性医師が増えてきたことについてどう思われますか。

二尾愛先生をはじめ、佐世保共済病院で働く女性医師はモチベーションが高いと感じます。極力仕事重視の姿勢で働く先生を見ると「助けてあげたい、応援したい」という気持ちになり、環境だけではなく、モチベーションがあれば一生懸命働けるんだと気づかされます。もちろん、各ご家庭の事情などもありますので、個人の働き方を尊重し、相談など私ができることであれば、お役に立ちたいです。



Q.ワークライフバランス推進員としてメッセージをお願いします。

女性医師にはいろんな働き方を模索しながら、働き続けてほしいと思います。フルタイム復帰ではなくても、自分の中で子育てが一段落したと思うタイミングで、いざ復帰するときに自信がない!と焦らないように、土曜日の日直や日勤帯のオンコールに月1回入るなどスキルやモチベーションを維持することが大切だと思います。

## 院内病児保育施設を利用されている医師へ感想をお伺いしました

- ・時間が空いた時などに様子を見に行けて良かった。(麻酔科医師)
- ・午前中だけみていただき、午後からは休みをとって自分で看病できました。突発的なので、業務の引継を午前中に済ませる間だけでも預かってもらえるので、安心です。(産婦人科医師)
- ・敷地内にあるのは、やはり心強いです。送迎の時間なども考慮すると、圧倒的に便利です。(内科医師)

## 南副センター長の所感

病児保育室も、女性医師や看護部からの要望に応えて、大がかりな改修工事などをせずに、空いている部屋を利用して対応しておられます。敷地内舎宅の利点を生かしてオンコールを乗り切り、共働き世帯の動線を短くして時間を短縮するワークライフスタイルを、参考にしてみてはいかがでしょうか。

## 6 ) 地域就労支援病院

長崎県下地域病院の就労支援情報を掲載しています。就労希望の診療科や両立に配慮した職場環境を地域毎に検索できます。新たに、ワークライフバランス推進員が在籍しているかを希望条件に追加しました。

### 検索手順

#### ① (例)内科&時間短縮勤務制【正規職員】&院内保育園の場合

- ①希望する条件をクリック  
(複数選択可)



- ②検索ボタンをクリック



- ③条件を全て満たした病院が  
表示される

※ヒットしない場合は条件を  
減らして再度検索してください。

診療科	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 形成外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> 眼科 <input type="checkbox"/> 泌尿器科 <input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> リハビリテーション科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 精神科 <input type="checkbox"/> 検診 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 全科対応可能
仕事と生活の両立に配慮した職場環境	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮勤務制【正規職員】 <input type="checkbox"/> パートタイム制 <input type="checkbox"/> フレックスタイム制 <input type="checkbox"/> 家庭の事情等による急な勤務変更へのバックアップ体制 <input type="checkbox"/> 当直免除 <input type="checkbox"/> ベビーシッター費用補助 <input checked="" type="checkbox"/> 院内保育園 <input type="checkbox"/> 提携【院外保育園】 <input type="checkbox"/> 病児保育 <input type="checkbox"/> 育児休業・介護休業等、長期休暇取得後の現場復帰 <input type="checkbox"/> 育児休業・介護休業中の給与を保障 <input type="checkbox"/> ワークライフバランス推進員が在籍 <input type="checkbox"/> その他
フリー ウード	<input type="text"/>

検索

②

③

ワークライフバランス推進員が在籍している病院

ホスピレート…働きやすい病院に認定された病院

長崎市

-  済生会長崎病院
-  重工記念長崎病院
-  長崎みなとメディカルセンター
-  長崎記念病院
-  長崎友愛病院
-  三和中央病院
-  長崎原爆病院
-  道ノ尾病院

佐世保市

-  長崎労災病院
-  佐世保中央病院
-  サン・レモ リハビリ病院

平成29年度 地域就労支援登録 9病院

登録数 県下150病院のうち、89病院(登録率59%)



長崎北徳洲会病院



道ノ尾病院



耀光リハビリテーション病院



佐世保記念病院



サン・レモ リハビリ病院



潜龍徳田循環器科内科整形外科病院



谷川病院



平戸市民病院



長崎県壱岐病院

## 登録病院一覧

### 長崎市

長崎大学病院  
済生会長崎病院  
長崎腎病院  
掖済会長崎病院  
重工記念長崎病院  
長崎みなとメディカルセンター市民病院  
高原中央病院  
十善会病院  
昭和会病院  
上戸町病院  
長崎病院  
長崎あじさい病院  
和仁会病院  
日見中央病院  
田上病院  
長崎記念病院  
長崎友愛病院  
三和中央病院  
小江原中央病院  
日浦病院  
大石共立病院  
ニュー琴海病院  
田川療養所  
光晴会病院  
虹が丘病院  
長崎北徳洲会病院  
長崎原爆病院  
三原台病院  
聖フランシスコ病院  
長崎みどり病院  
道ノ尾病院

### 佐世保市

長崎労災病院  
燐光リハビリテーション病院  
千住病院  
佐世保市総合医療センター  
福田外科病院  
佐世保共済病院  
佐世保中央病院  
天神病院  
佐世保北病院  
佐世保記念病院  
三川内病院  
西海病院  
サン・レモ リハビリ病院  
北松中央病院  
潜竜徳田循環器科内科  
整形外科病院

### 島原市

高城病院  
八尾病院  
島原マタニティ病院  
柴田長庚堂病院  
長崎県島原病院

### 大村市

長崎医療センター  
大村共立病院  
中澤病院  
市立大村市民病院  
南野病院  
貞松病院  
長崎県精神医療センター

### 諫早市

諫早記念病院  
西諫早病院  
宮崎病院  
長崎県立こども医療福祉センター  
諫早総合病院  
小鳥居諫早病院  
諫早療育センター  
みさかえの園あゆみの家  
みさかえの園総合発達医療センター  
福祉センターむつみの家  
長崎原爆諫早病院

### 平戸市

青洲会病院  
谷川病院  
北川病院  
柿添病院  
平戸市民病院

### 松浦市

菊地病院

### 対馬市

長崎県対馬病院

### 壱岐市

長崎県壱岐病院

### 五島市

郡家病院  
五島中央病院

### 西海市

長崎セント・ノーヴァ病院  
真珠園療養所

### 雲仙市

公立新小浜病院  
安藤病院

### 南島原市

泉州病院

### 西彼杵郡

長崎百合野病院  
長崎北病院  
女の都病院

### 東彼杵郡

長崎川棚医療センター  
鈴木病院

### 南松浦郡

上五島病院

## お願い

登録がお済みでない病院(メールマガ「あじさいプロジェクト通信」が届いていない)は、あじさいプロジェクトホームページの地域病院専用登録フォームよりご登録ください。情報の更新につきましても、隨時ご連絡をお待ちしています。

※メールマガジン「あじさいプロジェクト通信」を通して、イベント開催のお知らせ・活動内容のご報告・調査のご協力をお願いなどをお届けします。お知らせいただくメールアドレスは、貴院でワークライフバランスに関する担当部署の方などをお願いします。

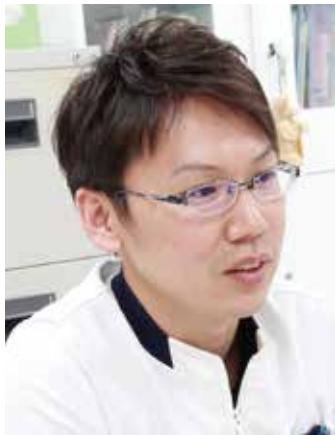
平成29年度 新規メルアド登録 6病院

登録数 県下150病院のうち、105病院(登録率70%)

地域病院専用登録フォーム	
施設名	
ふりがな	
郵便番号(郵便番号)	
経営者名	
性別	
連絡先責任者名	
連絡先責任者性別	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス(ご担当者)	

## 7) 私たちのワークライフバランス実践術

ワークライフバランスを実践している医師など医療人のみなさんへ、両立のコツやキャリアについてインタビューしています。※インタビュー全文は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。



### 【私たちのワークライフバランス実践術No.15】

平成29年3月インタビュー

長崎大学病院 薬剤部 伊東 潤一 さん  
病棟看護師の妻(復職済み)と1歳のお子さん

#### 『生後5か月の時に2か月取得』

##### Q.育児休業(以下育休)取得の期間ときっかけは?

A.薬剤部の男性で初めて育休を2か月間取得しました。妻の実家は他県ですが、里帰り出産をしませんでした。夫婦2人で育てをやっていくうえで、妻のストレスがたまっていると感じたので、負担を減らすために、僕も育休を取得しました。薬剤部では、女性の育児休業取得者も少ない現状ですが、自分が発端となり、男女ともに育休がとりやすい環境になればいいとも思いました。

##### Q.ご家族の反応

A.妻は、僕が育休を取得できることがわかると、「育休開始まで頑張ろう!」と思っていたようです。親たちは「(男性でも育休が)取れるんだね。」という感じでした。

##### Q.職場の反応・理解

A.まず、薬剤部の人事を管理している副部長へ相談しました。年度の初めで新人も入るし、忙しい時期に育休を希望していたのですが、家族のことを考えてくださいり、理解してもらいました。

##### Q.休業中の家事・育児分担と復職後の分担は?

A.2人で休業中でしたが、食事づくりは妻がメインで、他のことは、できるほうがしていました。現在、妻も復職していて、夫婦ともに夜勤もあるのですが、育休中にお互いが何でもできるようになっていたので、妻が夜勤でも大丈夫です。

##### Q.印象に残るエピソードは?

A.毎日親子3人で出かけたりして一緒に過ごして、楽しかったことですね。それと、寝返りやハイハイが初めてできた「瞬間」を見ることができたことです。昨日までできていなかったのに、次の日にできるようになるという、子どもの成長を直接見る感動が日々ありましたね。

##### Q.育休取得によるプラス面・マイナス面は?

A.プラス面は、育児全般ができるようになったことでしょうか。マイナス面かどうかわかりませんが、家庭も大事にしている生活がマイナス評価になっていないか、不安に思うことはあります。



### 【私たちのワークライフバランス実践術No.16】

平成29年3月インタビュー

長崎大学病院 薬剤部 城 正士 さん  
同業の妻と11か月のお子さん

『生後9週のときに1か月取得』

---

#### Q.育児休業(以下育休)取得の期間ときっかけは?

A.妻が産後休暇(子どもは生後8週)終了直後から1か月間、復職する事情があり、その間僕が妻より先に育休を取得しました。僕と交代で妻は現在育休中で、今年の5月に復職予定です。

---

#### Q.ご家族の反応は?

A.妻は喜びました。双方の両親は、男性でも育休が取れることに驚いていました。

---

#### Q.職場の反応・理解は?

A.休む事情を理解してくれました。通常、4つの病棟を4人で担当しているため、僕が休んでいる間は、3人でカバーする形で対応してくださいました。

---

#### Q.休業中の家事・育児分担は?

A.もともと、僕の母親が働いていたので、子どもの頃からお手伝いで洗濯物の片づけなどはしていました。大学生の時は一人暮らしで自炊もしていました。結婚後は、共働き・共家事で、それぞれ時間があるほうが、家事をしていました。僕の育休中は、何でもやっていました。休みに入る前に、(父と子)2人で過ごす練習もしました。母乳のストックを哺乳瓶で飲ませて、足りない場合は、ミルクを作って飲ませていました。今は妻が育休中なので、たいていの家事・育児はしてくれていますが、週末は僕が食事を作ったりしています。

---

#### Q.印象に残るエピソードは?

A.子どものいる友人から、「父親に子どもがなつかない」という話を聞いていたのですが、育休中に世話をしていたおかげか、僕は大丈夫でしたね。今でも、妻が美容室やリフレッシュのために外出しても、子どもと2人の留守番は問題ありません。

---

#### Q.育休取得によるプラス面・マイナス面は?

A.プラス面は、(初めから2人で過ごす機会を持ったことで)子どもとの距離が近いということですね。マイナス面は特にありません。

---

### 3. 調査・研究

※詳細は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。

#### 1 平成29年度 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート

##### 1. 調査の目的

医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ。

##### 2. 対象と方法

実施日：平成29年7月3日

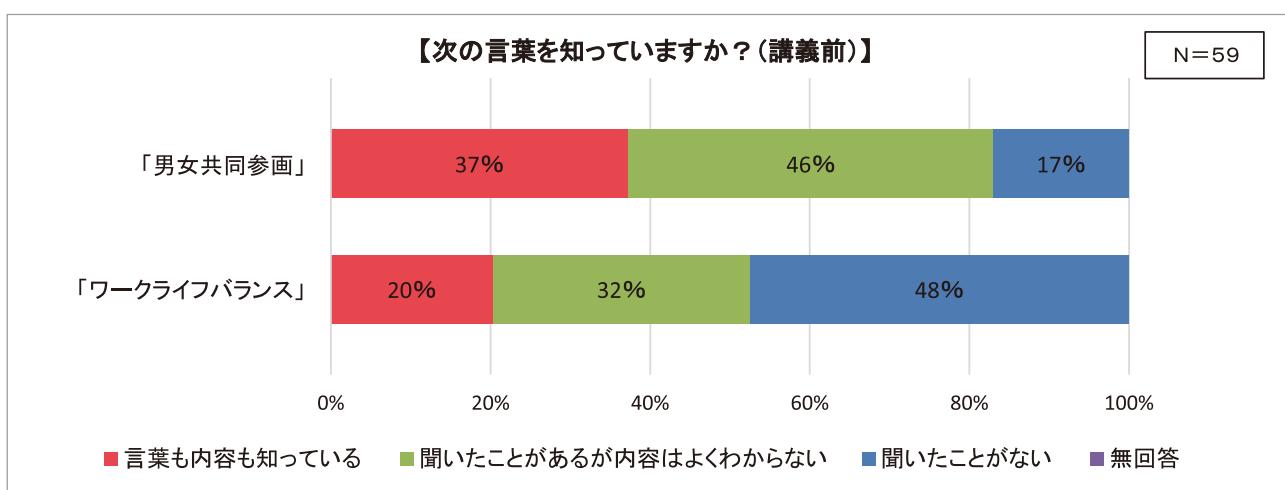
調査対象：医学部3年生81名（男子55名、女子26名）

調査方法：「医と社会」授業1～4時間を使って、ワークライフバランス講義、医師夫婦の両立事例をグループワーク、グループ発表、意見交換、ロールモデル医師発表、外部講師講演、キャリア＆ライフ未来年表の作成を行う。授業前後でアンケートを行い、その場で回収した。

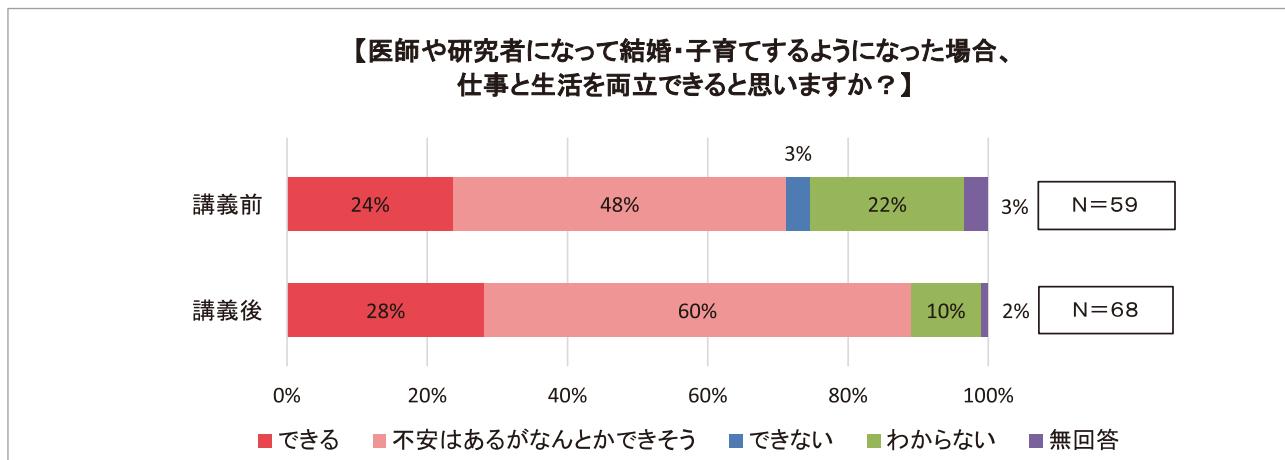
配布・回答数（回答率）：授業前配布81名 回収59名（72.8%）

授業後配布81名 回収68名（83.9%）

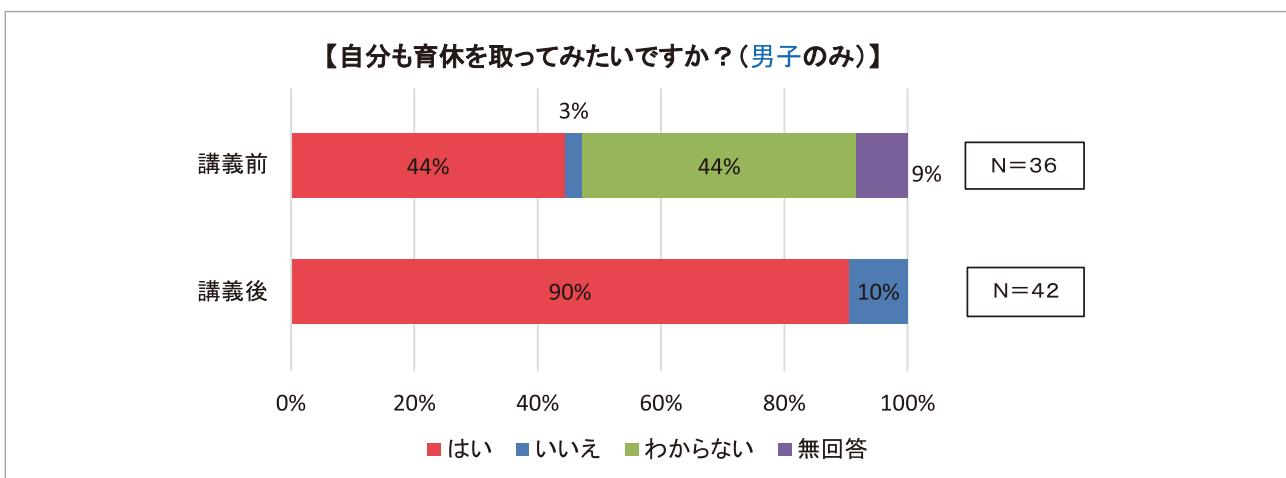
##### 3. 結果と考察



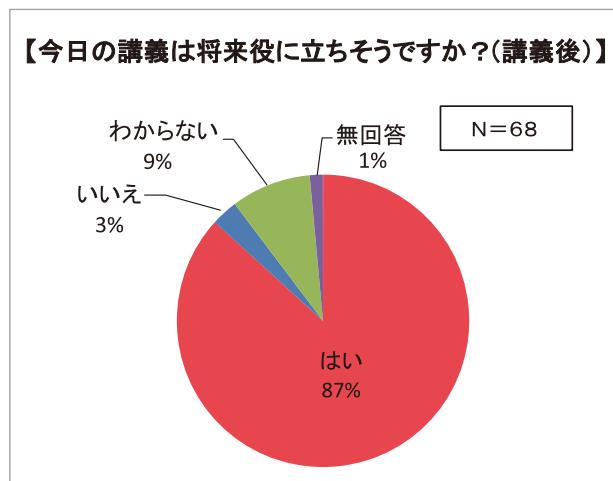
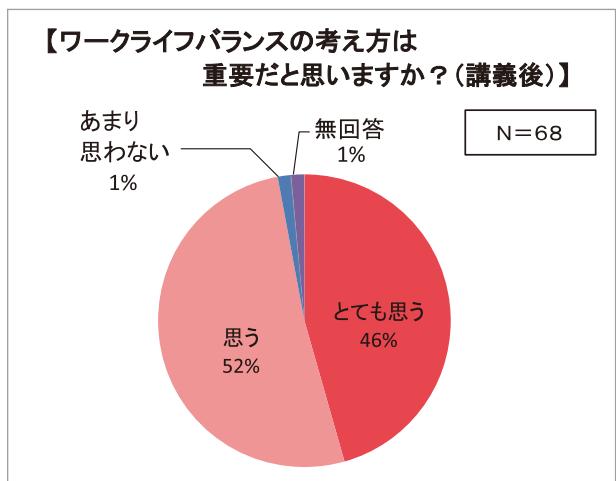
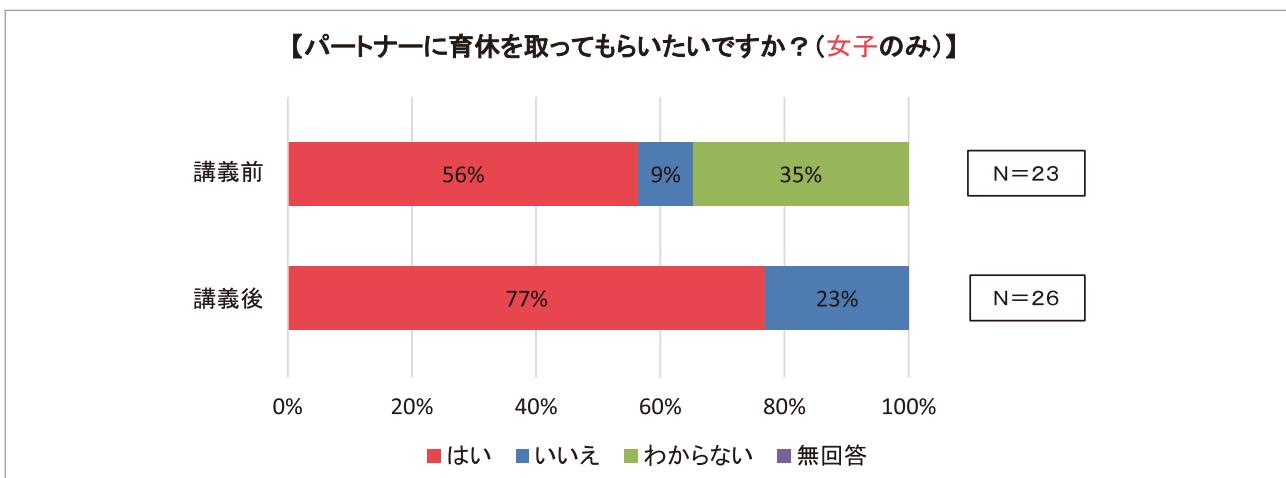
●「男女共同参画」と「ワークライフバランス」の言葉も内容も知っている割合は低く、まだ学生には浸透していない。



●仕事と生活の両立については、講義前→後で「両立できる」24%→28%へ、「不安はあるがなんとかできそう」48%→60%へと増加している。「できない」「わからない」の割合は、いずれも講義後に減少した。



●自分も育休を取ってみたい男子学生の割合は、平成26年度から毎年実施してきたこれまでの講義の中で、講義前後ともに一番多い結果。



## 2 平成29年度 医師の両立支援状況調査

### 1. 調査の目的

病院経営者・管理者として、ワークライフバランス施策に対する認識を把握し、長崎県内病院の育児・介護休業制度等の両立支援策の取り組み状況や短時間勤務制度利用等の実態調査を行う。また、医師不足・医師偏在の解決策の一つとして、長崎県内病院と診療所で働く女性医師の勤務状況を把握し、希望者にはキャリアコンサルティングやメールマガジンを通して情報発信を行うことで、就労継続のサポートやキャリアアップの後押しへつなげる。

### 2. 対象と方法

実施月：平成29年6月

調査対象：長崎県内149病院と、1,355診療所

調査方法：調査票を郵送し、同封の返信用封筒で回収。

質問内容：常勤・非常勤医師数、子育て中の医師数、医師の健康診断受診率、職場環境の整備について、ワークライフバランス施策の認識についてなど。

### 3. 結果と考察

配付・回答数(回答率)：配付149病院 回答101病院(67.8%)、

配付1,355診療所 回答743診療所(54.8%)

長崎県内医療機関に勤務している女性医師をできる限り把握することを目的に調査した。「あじさいプロジェクト」が女性医師の就労支援さらにキャリアアップ支援をしていくための基礎データを構築するために、県内の1,355診療所も対象に含めた。また、女性医師の勤務時間数等の質問も行った。

#### 【長崎県内の女性医師について】

これまで当センターが把握していた約800名の女性医師に加え、新たに44名の女性医師が県内で働いていることを確認できた(病院33名・診療所等11名)。

#### 【101病院の調査結果】

①4年連続で100病院以上から回答があった。毎回、当センターのメルマガ登録書を同封しており、登録病院は累計104病院(登録率70%)となった。

②長崎県内の病院に勤務する女性医師の割合は、最近5年間は22–23%で推移。勤務形態は、女性医師の場合、常勤60%、非常勤40%で、昨年度より常勤医師数・割合ともにわずかに増加。非常勤の割合は昨年度同様、男性(非常勤割合18%)より多かった。(図1)

③病院に勤務しながら子育てをしている女性医師は、長崎県内の病院勤務医師全体では6%である。(図1・2)

④病院における両立に関する取り組み姿勢:休暇や休業制度(産前・産後・育児・介護)の周知・取得促進に積極的に取り組んでいる病院が増加。男性の家事・育児参加の奨励については、積極的に取り組んでいる病院は微増(6→8%)、一方まったく取り組んでいない病院が増えている(10→20%)。(図3)

⑤ワークライフバランス施策についての考え方:重視・推進していない割合が増加していた。また施策によるメリットを感じている割合が減少。デメリットとして、病院にとって負担が大きいと感じる割合が微増(7→9%)していた。この点は、昨年までの傾向が今年は継続されていなかった。(図4)

⑥勤務環境の整備:仕事と生活の両立に配慮した制度は、60%前後で昨年同様。(図5・6)

⑦医師の負担軽減に配慮している取り組み事例:一番多い回答は、医療クラークの配置(27病院)、次いで、当直翌日の勤務緩和(13病院)、勤務時間削減(11病院)であった。

⑧回答のあった101の病院に勤務する女性医師555名(大学病院を含む)のうち、子育て中(小学6年生までの子を養育中)の女性医師は147名(26%)であった。長崎・県央・佐世保の3つの医療圏で子育て中の女性医師が94%と集中しており、他の医療圏には10人以下であった。

⑨昨年度は子育て中の女性医師はいなかった五島医療圏・壱岐医療圏に、今年度は2名・3名が勤務していた。

通勤や通学、保育サポート環境の有無等が、子どものいる女性医師の勤務先が偏在する理由であると思いますが、離島・県北に病児保育施設がないのは現実です(対馬病院には院内病児保育があります)。院内保育・院内病児保育施設があれば、子どもが小さい時に離島で勤務をすることが選択肢になるかもしれません。医師確保対策のひとつとして、病院管理者のみなさまにご検討いただければと思います。

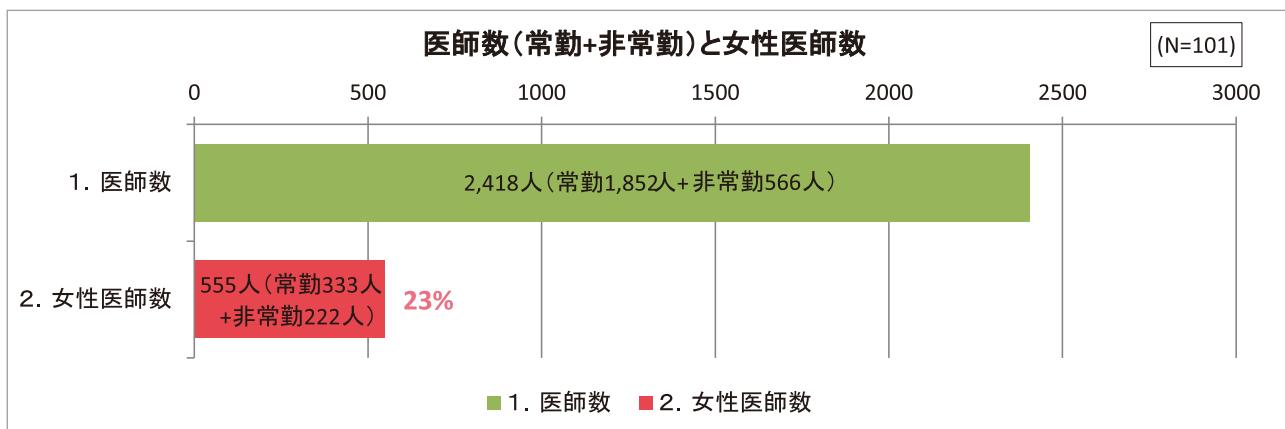


図1

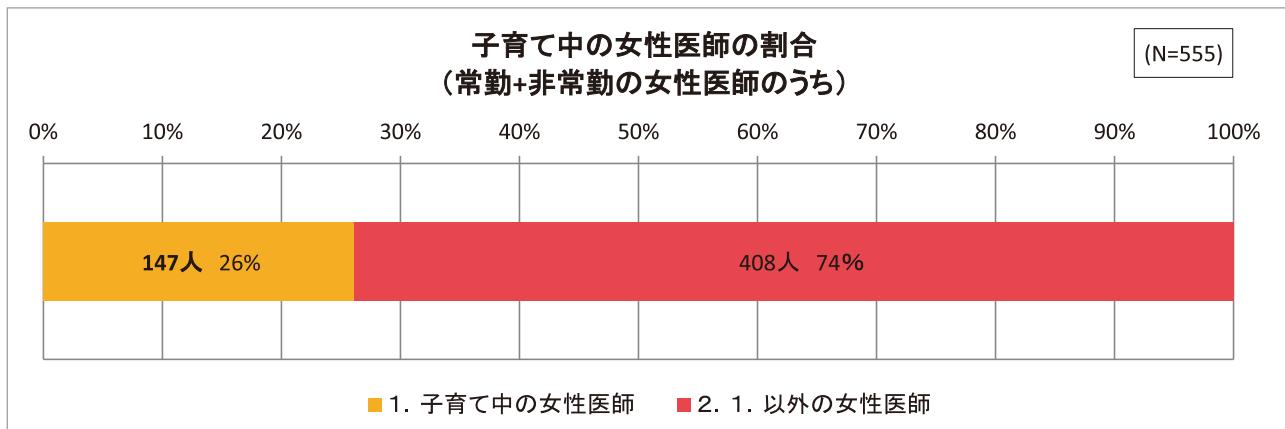


図2

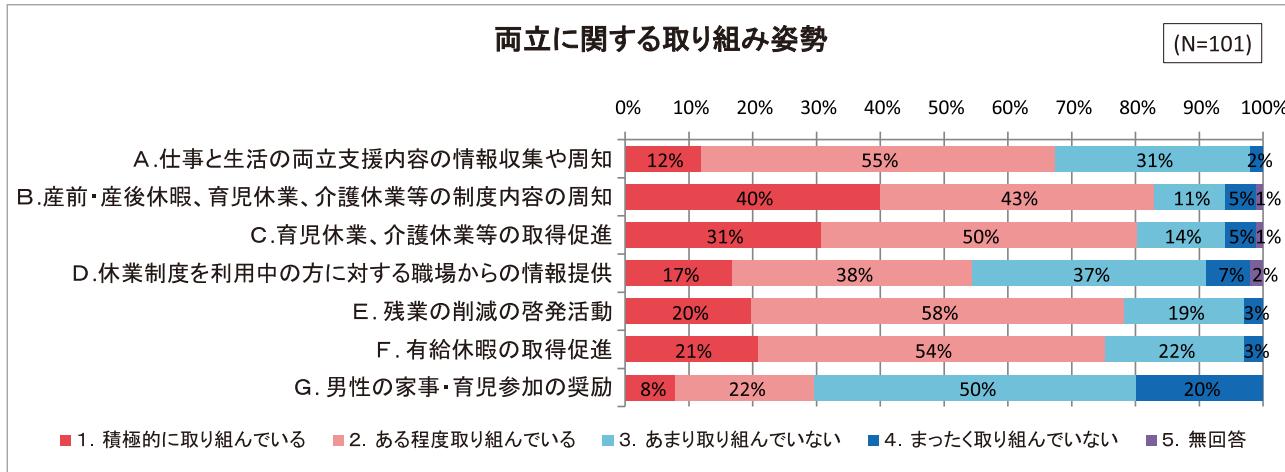


図3

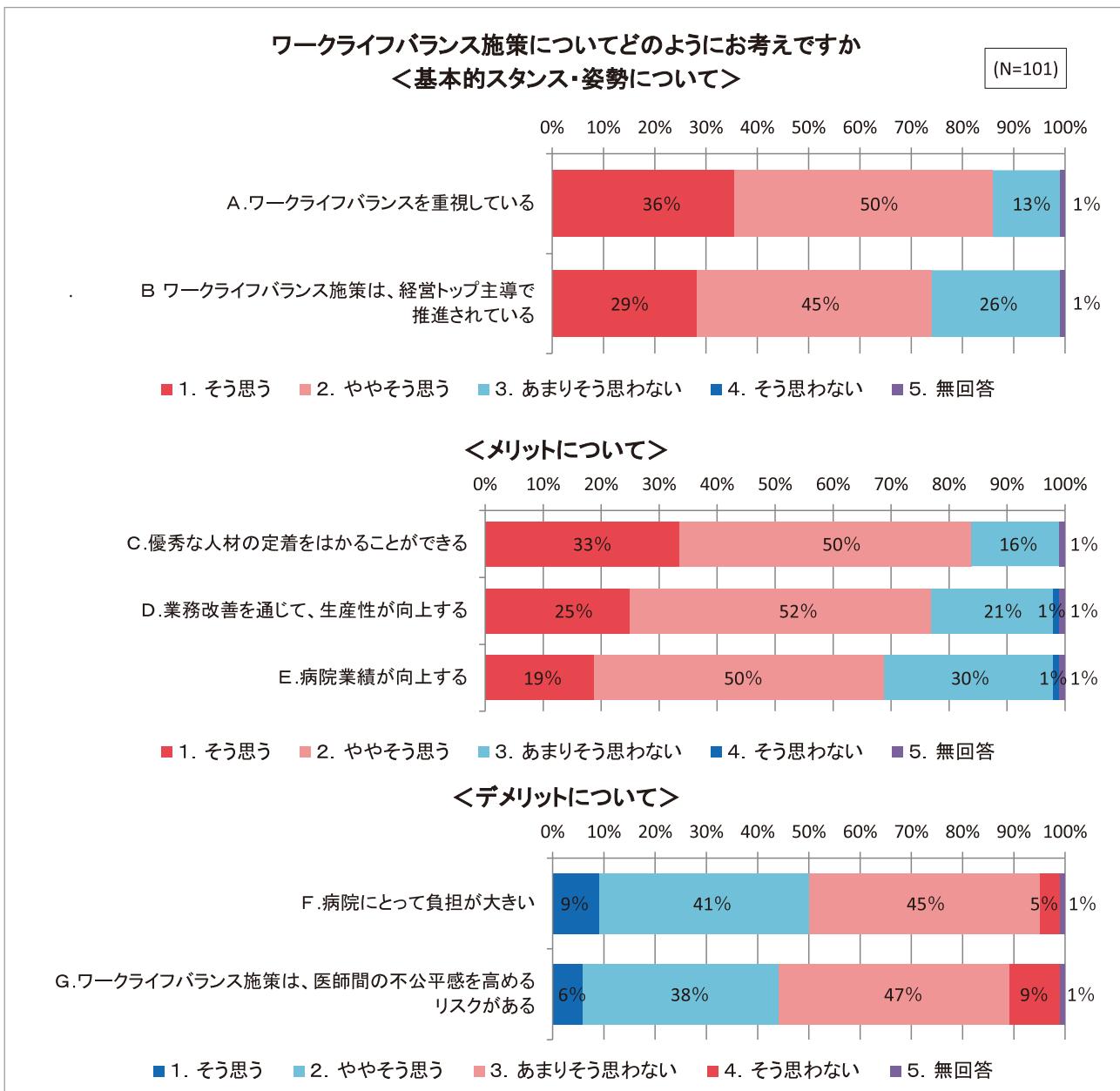


図4

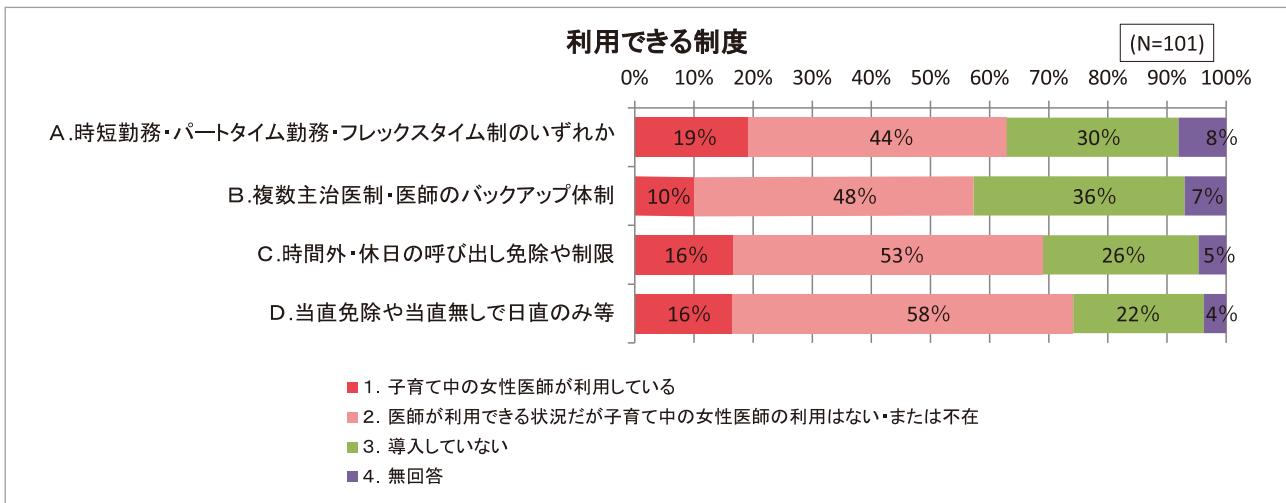


図5

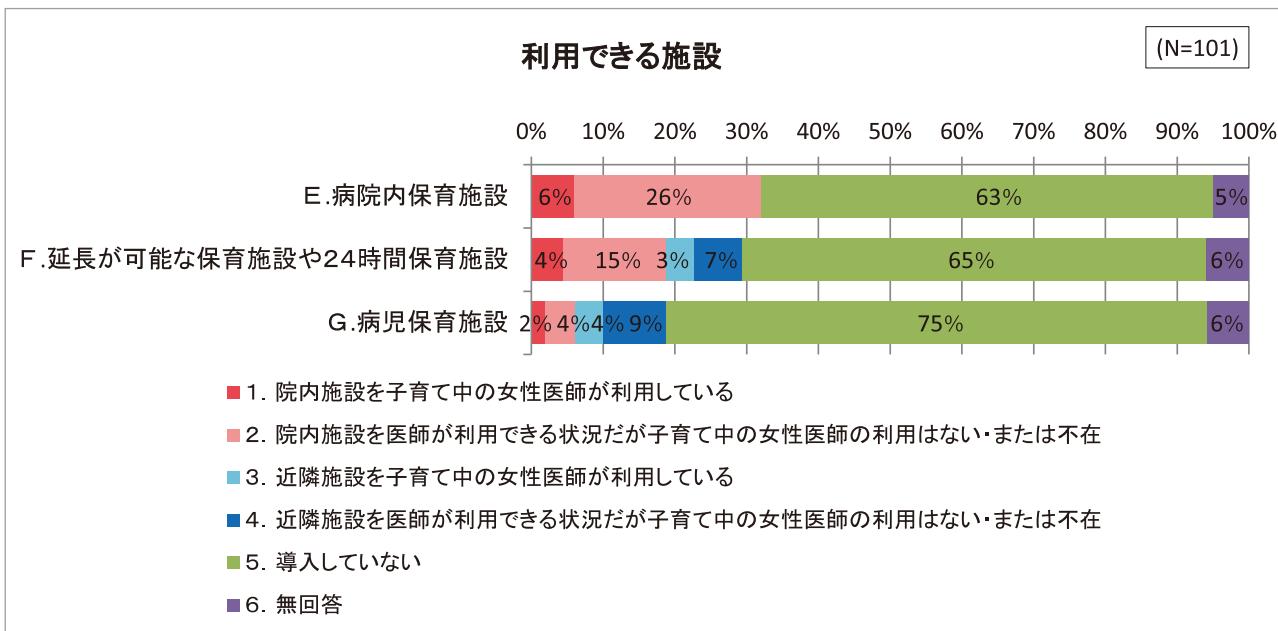
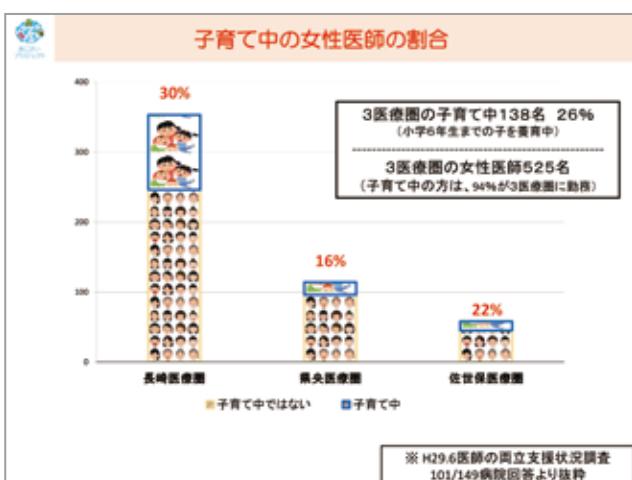
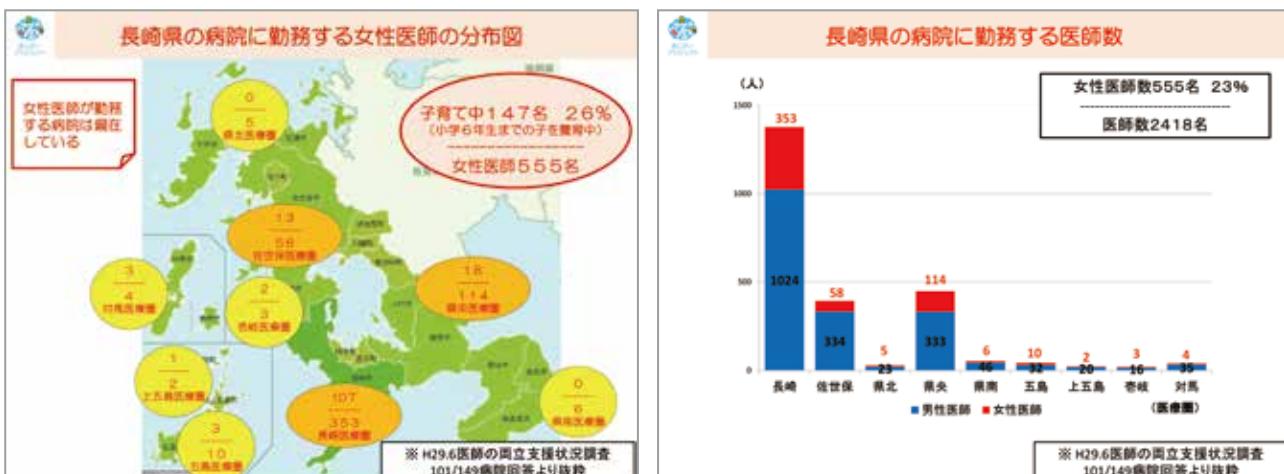


図6

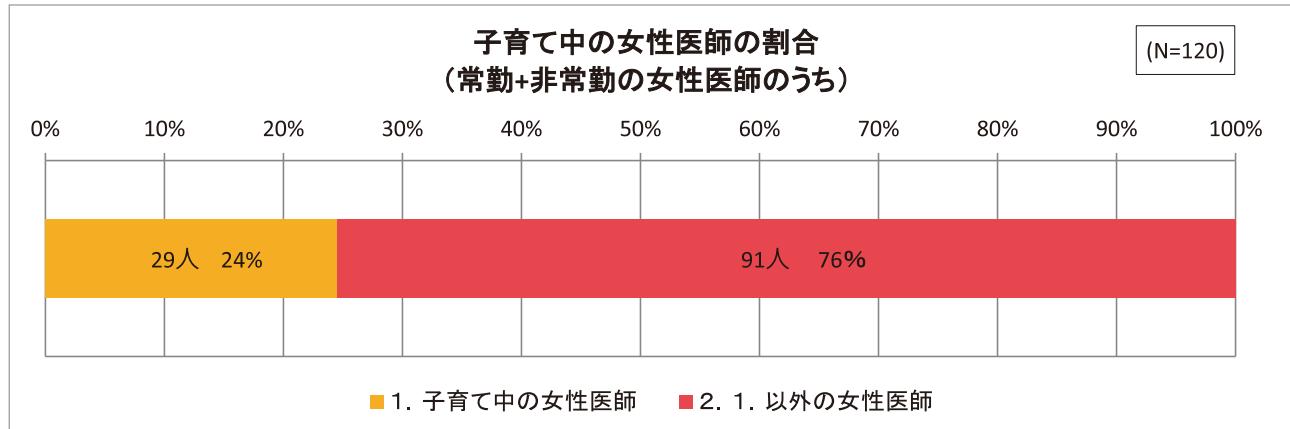
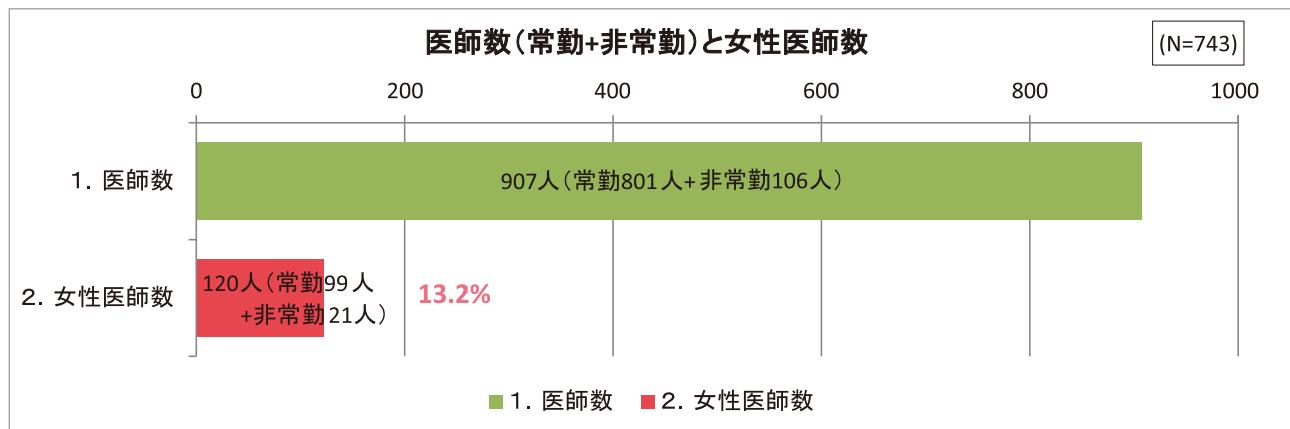


## 【743診療所の調査結果】

回答いただいた743診療所のうち、125診療所( $125/743=17\%$ )には女性医師が勤務していた。

### 《各診療所からの両立支援に関するご意見》(抜粋)

- ・当院は私ひとりだけですが、当院のシステムならば両立可と考えます。外来・訪問どちらも基本完全予約なのでスケジュール調整しやすいです。
- ・医師が残業規制の対象外とされる第一の理由は、医師には原則として診療を拒めない「応召義務」が課せられており、残業の上限規制によりその義務が果たせなくなる懸念があるからです。医師の勤務環境を改善するためには、応召義務が課せられる勤務時間を、交代制とする体制整備が進むと良いと思います。
- ・卒後30年で3人の子育ても終了し、家庭と仕事の両立に頭を悩ませる事もなくなりました。自分の時間も割持てる様になりました。最近は、私達の頃と違って、若い女性医師の両立支援が随分整ってきた様で何よりです。心より応援しています。



調査へご協力いただきました各病院・診療所のみなさま、ありがとうございました。

### 3 平成29年度 医師の両立支援状況調査 二次調査

#### 1. 調査の目的

「医師の両立支援状況調査」の両立に関する取り組み姿勢で、「積極的に取り組んでいる」と回答した病院の具体的な取り組み内容を把握し、県内病院へ参考事例として情報提供を行うため。

#### 2. 対象と方法

実施月：平成29年8月

調査対象：両立に関する積極的な取り組みをしている長崎県内の51病院（本誌P49図3-赤色グラフ）

調査方法：メルアド登録済の43病院は、メールで回収。

メルアド未登録の8病院は、調査票を郵送し、FAXかメールで回収。メルアド登録を依頼。

質問内容：両立に関する取り組み姿勢で、積極的に取り組んでいる具体的な内容。

#### 3. 結果

配付・回答数（回答率）：配付51病院 回答18病院（35%）

##### A. 仕事と生活の両立支援内容の情報収集や周知

- ・医師対象の短時間テレワーク（在宅勤務）制度について、対象者へ説明している（現在整備中）
- ・担当者を設け、関連するセミナー等に出席して情報を収集している

##### B. 産前・産後休暇、育児休業、介護休業等の制度内容の周知

- ・入職時に説明
- ・休職前に説明
- ・法や制度改正時に説明
- ・規則集を配布、部署に配置、職員用ネットに掲載
- ・メディカル・ワークライフバランスセンターから提供される情報を、必要に応じて医師全員に回覧
- ・研修へ担当者を派遣
- ・院内アンケートを実施して現状分析と改善計画策定

##### C. 育児休業、介護休業等の取得促進

- ・取得予定者・取得対象者への説明、職員用ネットに掲載
- ・復帰後の支援体制整備：育児短時間勤務、短期介護休暇、宿日直免除、担当入院患者数の制限、院内保育施設開設
- ・休業中の体制整備：休業者のいる部署の人員配置調整など

##### D. 休業制度を利用中の方に対する職場からの情報提供

- ・メールや電話

##### E. 残業の削減の啓発活動

- ・30分以上の残業には時間外申請を必要とする
- ・部署ごとに残業時間削減目標を設定して取り組む
- ・3か月ごとに部署ごとの残業時間を報告、削減に取り組み

##### F. 有給休暇の取得促進

- ・入職時に周知・資料配布
- ・4月に有給休假日数を通知
- ・取得率の目標を立てている

##### G. 男性の家事・育児参加の奨励

- ・保育園送迎のための時差出勤可能
- ・ポスター掲示

二次調査へご協力いただきました18病院のみなさま、ありがとうございました。

## 4. 広報活動

### 1 講 演

- 2017.01.29(愛知) **伊東昌子:**医療従事者における燃え尽き症候群とワークライフバランス。第10回日本性差医学・医療学会(シンポジウム)
- 2017.02.18(東京) **伊東昌子:**あらゆる人が能力を発揮できる大学を目指して～長崎大学におけるダイバーシティ推進の取組～。第46回日本神経放射線学会(ダイバーシティ推進プログラム・基調講演)
- 2017.04.22(鹿児島) **伊東昌子:**長崎大学におけるワークライフバランスとダイバーシティ推進の取り組み。第105回日本泌尿器科学会総会(男女共同参画委員会シンポジウム・特別講演)
- 2017.05.26(東京) **伊東昌子:**Rikejo development program to foster dreams, admiration, and ambition at Nagasaki University -Science course selection support program for junior and senior high school girls. Gender Summit Asia-Pacific 10 (ポスター)
- 2017.05.26(東京) **伊東昌子:**Rikejo development program to foster dreams, admiration, and ambition at Nagasaki University -Science course selection support program for junior and senior high school girls. Gender Summit Asia-Pacific 10 (口演)
- 2017.06.18(長崎) **伊東昌子:**次世代のリケジョを支えましょう。「平成29年度夢・憧れ・志を育むリケジョ育成プログラム」夢セミナー。保護者・教員向けキャリアセミナー
- 2017.07.27(福岡) **伊東昌子:**女性研究者セッション 鼎談「研究者のためのワークライフバランスとダイバーシティ」。第35回日本骨代謝学会(シンポジウム座長・鼎談)
- 2017.07.29(長崎) **伊東昌子:**ワークライフバランス実現の、その先に見えるものへの挑戦。平成29年度長崎県医師会勤務医部会総会(特別講演)
- 2017.07.30(長崎) **伊東昌子:**次世代のリケジョを支えましょう。「平成29年度夢・憧れ・志を育むリケジョ育成プログラム」夢セミナー。保護者・教員向けキャリアセミナー
- 2017.08.18(長崎) **南貴子:**仕事と生活の両立のために～あじさいプロジェクト～。長崎県医学修学生等夏期研修 ワークショップin対馬
- 2017.09.06(長崎) **伊東昌子:**ワークライフバランスと働き方見直し。九州地区国立大学法人等係長研修
- 2017.10.16(長崎) **伊東昌子:**女性のキャリアアップのために。長崎県教育センター研修講座“女性教職員の活躍を目指したキャリアアップ研修講座”
- 2017.11.07(長崎) **伊東昌子:**これから医療を支える働き方見直しとダイバーシティ。長崎医療センター職員研修
- 2017.11.17(群馬) **伊東昌子:**大学の躍進にむけたワークライフバランスの実現。文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業キックオフシンポジウム～ダイバーシティ研究環境実現に向けた意識改革～(特別講演)
- 2017.11.24(佐賀) **伊東昌子:**医療現場におけるワークライフバランスと骨折連鎖防止に向けて。ワークライフバランスと骨粗鬆症治療について考える会
- 2017.12.12(東京) **伊東昌子:**医療界におけるダイバーシティの推進。文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)シンポジウム「男女が共に働きやすい・働きがいのある職場とは～ダイバーシティ環境を目指して～」(基調講演)
- 2017.12.15(長崎) **伊東昌子:**これからを考える働き方見直しとダイバーシティ。第95回長崎医学会総会・第410回長崎医学会例会(特別講演)
- 2018.02.18(長崎) **南貴子:**～長崎県での女性医師支援活動の報告～。公益社団法人日本女医会ブロック懇親会in長崎
- 2018.03.06(長崎) **南貴子:**第2回長崎県医療勤務環境改善支援セミナー「長崎県内病院の医師の両立支援状況～2017年6月調査結果より～」

## 2 メディア掲載・出演

・Medical Tribune 2017.2.23掲載

「医師の職位が低いほど燃え尽き度が悪化 長崎大学病院医療職アンケート」(伊東昌子)

・長崎新聞 2017.4.8掲載 石だたみ

県内の医療機関で働く妊娠中の女性医師に  
マタニティ白衣を貸し出し



※長崎新聞社提供

・長崎県医師会報 第856号 2017.5掲載

女性医師支援

「復職&リフレッシュトレーニング

—平成29年度の計画が決まりました—」(伊東昌子)



・長崎県医師会報 第857号 2017.6掲載

女性医師支援

「マタニティ白衣・パンツ

—長崎県内全域に無料レンタル開始します—」(伊東昌子)



・長崎大学循環器内科年報 7号(2016) 2017.12発行

近況報告

メディカル・ワークライフバランスセンターの  
取組紹介(南貴子)



・プレジデントウーマン1月号 2017.12.7発行

「自立した生活を続けるための女性の骨と、介護の話」(伊東昌子)

## 5. 委員会活動

### 1 センター運営委員会

#### センター運営委員会(事業計画)

日 時：平成29年4月28日(金)  
メール会議

##### 【議 題】

- 1.運営委員の編成について
- 2.運営委員会(メール会議)について
- 3.平成29年度計画
- 4.ワークライフバランス推進員について

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター  
運営委員名簿(平成29年度)

	所 属	役 職	氏 名
1	メディカル・ワークライフバランスセンター	教授	伊東 昌子
2	メディカル・ワークライフバランスセンター	副センター長	南 貴子
3	医療教育開発センター	教授	濱田 久之
4	小児科	助教	白川 利彦
5	産科婦人科	准教授	北島 道夫
6	特殊歯科総合治療部	准教授	田上 直美
7	臨床研究センター	准教授	福島 千鶴
8	葉剤部	教授	佐々木 均
9	看護部	部長	貞方 三枝子
10	人事企画課	課長	近藤 政美
11	総務課	課長	上田 祐介
12	経営管理課	課長	本田 秀史

#### センター運営委員会(事業実績)

日 時：平成30年2月2日(金)  
16:00～17:00  
場 所：病院多目的指導室(中央診療棟2階)  
出席者：10名 欠席者：2名  
列席者： 8名(ワークライフバランス推進員等)



##### 【議 題】

- 1.運営委員の新任紹介
- 2.センター内規、センター運営委員会内規、組織図の一部改正
- 3.平成29年度事業実績報告
- 4.その他

### 2 企画会議

#### 第1回企画会議

日 時：平成29年5月8日(月)10:00～12:00  
場 所：メディカル・ワークライフバランスセンター  
出席者4名：南副センター長、クラスペディア吉岡氏、センター事務 三宅、有馬

##### 【議 題】

- 1.県内病院・診療所への「医師の両立支援状況調査」について
- 2.学生キャリア講習会の「講義前・講義後アンケート」について

## 6. その他

### 1 参加・受講

- 2017.02.03(大阪) **南貴子:**日本経済団体連合会・内閣府主催「ダイバーシティ・マネジメントセミナー」
- 2017.03.12(福岡) **南貴子:**久留米大学病院「元気プロジェクト報告会」
- 2017.03.15(長崎) **南貴子・三宅コラスタイル由香・有馬理音:**長崎県主催「イクボスが長崎を変える～中小企業が生き残るために経営戦略～」
- 2017.05.27(東京) **伊東昌子:**国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催 女子中高生向けサテライトイベント「進路で人生どう変わる? 理系で広がる私の未来」
- 2017.06.16(東京) **伊東昌子:**WLBコンサルタント養成講座～アドバンス編 朝・夜メール、カエル会議議事録の分析手法コース～
- 2017.07.07(東京) **伊東昌子:**WLBコンサルタント養成講座～アドバンス編 報告会を次につなげるための成果可視化コース～
- 2017.10.14(東京) **伊東昌子:**男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」
- 2017.11.03(岡山) **南貴子:**第8回岡山MUSCATフォーラム「育メン・育ボス・育自」
- 2017.11.11(長崎) **南貴子:**平成29年度ながさき女性医師の会 市民公開講座「女性と排尿障害」
- 2017.12.02(東京) **伊東昌子:**内閣府男女共同参画連携会議・津田塾大学主催「AI時代 女性・少女が未来を拓くーステレオタイプの殻をやぶろうー」
- 2017.12.08(長崎) **南貴子・三宅コラスタイル由香・有馬理音:**平成27～32年文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」中間報告シンポジウム「多様性の尊重 ダイバーシティと大学の未来」
- 2018.02.23(東京) **伊東昌子:**介護離職防止対策アドバイザー養成講座

### 2 施設見学

- 2017.11.09-10 **南貴子:**京都府立医科大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こがも」見学

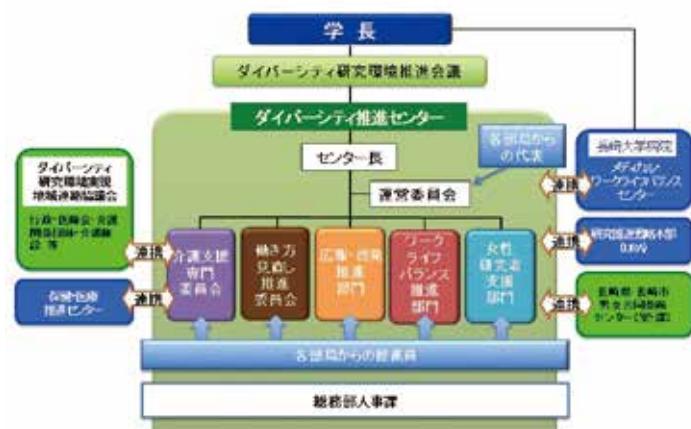
### 3 関連機関所属一覧

#### 伊東昌子 センター長

- 日本骨形態計測学会 評議員(アドバイザー・前理事長)  
日本骨代謝学会 監事  
日本骨粗鬆症学会 評議員  
日本性差医学・医療学会 理事  
日本学術会議 連携会員  
長崎県女性医師等就労支援協議会 委員  
長崎県医師会男女共同参画委員会 委員  
長崎大学医師会 理事  
長崎県医療審議会 委員  
長崎県公立大学法人評価委員会 委員  
長崎市男女共同参画審議会 委員長  
ながさき女性活躍推進フォーラム実行委員会 委員  
ながさき女性医師の会 監事

#### 南貴子 副センター長

- 長崎大学ダイバーシティ推進センター  
ワークライフバランス推進部門 副部門長  
平成29年度ダイバーシティ推進センター  
働き方見直し推進委員会 委員



## メディカル・ワークライフバランスセンターへのアクセス

長崎大学病院 中央診療棟1階です。



平成29年度 あじさいプロジェクト活動報告書  
平成30年2月発行

発行 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター  
〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号  
電話&FAX 095-819-7979  
E-mail info01@nagasaki-ajisai.jp  
URL <http://nagasaki-ajisai.jp>

### メンバー

センター長 伊東 昌子  
副センター長 南 貴子  
センター事務 三宅スコラスタイル 由香  
センター事務 有馬 理音

### 編集協力・印刷

JiHHi design(ジッヒ デザイン)  
電話 080-3905-5865



